This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

TRICYCLIC COMPOUND

Patent number:

JP9040662

Publication date:

1997-02-10

Inventor:

KUMAZAWA TOSHIAKI; KANAI FUMIHIKO; FUKUI HIROMI; OSHIMA ETSUO; HIGO MASAMI; NOSAKA CHIHIRO; KASE HIROSHI; IKEMURA TOSHIHIDE;

OOMORI TAKEMORI

Applicant:

KYOWA HAKKO KOGYO CO LTD

Classification:

- international:

C07D313/12; A61K31/445; A61K31/445; A61K31/445; A61K31/445; A61K31/47; A61K31/495; A61K31/535; A61K31/535; A61K31/535; A61K31/54; A61K31/55; C07D337/12; C07D405/12; C07D405/12; C07D405/14;

C07D405/14; C07D405/14; C07D453/02

- european:

Application number: JP19960129848 19960524

Priority number(s):

Abstract of JP9040662

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a tricyclic compound having antagonisms to substance P and bradykinin, and useful for curing and prevention of allergy, asthma, inflammation, pain relief, autoimmune disease,

shock, etc.

SOLUTION: This compound is expressed by formula I W is CH2 O, CH2 CH2, etc.; (k) is 0-2; Y is OR<1> [R<1> is (CH2)m R<2>, etc. (R<2> is a (substituted) aryl, etc.; (m) is 0-6), etc.]; one of V<1> and V<2> is H and another is S(CH2)n ((n) is 2-4), etc., L is NR<3>, etc. (R<3> is H or a lower alkyl); M is CO, CH(OH), etc.; (p) is 0-6; Q is a (substituted) aryl, etc.} and its salt, e.g. N-(2-morpholinoethyl)-11-[2-(4- benzylpiperidine)ethyl]thio-6,11dihydrodibenze[b,e-]oxepin-2-carboxamide. The compound is obtained by, e.g. converting a compound of formula II into a reactive derivative of carboxylic acid such as an acid halide or a mixed acid anhydride, etc., and condensing the derivative with a compound of the formula Y-H in the presence (or absence) of a base.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

```
International Patent Class (Main): C07D-313/12
International Patent Class (Additional): A61K-031/445; A61K-031/47;
 A61K-031/495; A61K-031/535; A61K-031/54; A61K-031/55; C07D-337/12;
 C07D-405/12; C07D-405/14; C07D-453/02; C07D-211-10; C07D-313-12;
 C07D-213-16; C07D-209-10; C07D-207-08; C07D-207-323
File Segment: CPI
Manual Codes (CPI/A-N): B06-H; B14-C01; B14-C03; B14-G02A; B14-G02D;
 B14-J07; B14-L06
Chemical Fragment Codes (M2):
  *01* D011 D019 D021 D022 D220 D601 F011 F012 F014 F019 F431 F433 F553
      F653 F740 G010 G019 G100 H1 H103 H181 H182 H2 H201 H202 H211 H5 H592
      H9 J0 J011 J231 J331 J371 J581 L560 M1 M123 M132 M210 M211 M273 M280
      M282 M311 M312 M321 M322 M332 M342 M373 M383 M391 M392 M412 M511
      M512 M521 M522 M531 M532 M540 M630 M640 M650 M710 M903 M904 P411
      P420 P431 P433 P442 P617 9716-19305-N 03697
  *02* D011 D019 D021 D022 D220 D601 F011 F012 F014 F019 F431 F433 F553
       F653 F740 G010 G019 G100 H1 H103 H181 H182 H2 H201 H202 H211 H7 H720
      JO J011 J231 J331 J371 J581 L560 M1 M123 M132 M210 M211 M273 M280
      M282 M311 M312 M321 M322 M332 M342 M343 M373 M383 M391 M392 M412
      M511 M512 M521 M522 M531 M532 M540 M630 M640 M650 M710 M903 M904
      P411 P420 P431 P433 P442 P617 9716-19304-N 03697
  *03* D011 D019 D021 D022 D220 D601 F011 F012 F014 F019 F431 F553 F599
      F653 F740 G010 G011 G019 G100 H1 H103 H141 H181 H182 H183 H2 H202
      H203 H211 H5 H541 H592 H9 J0 J011 J231 J331 J371 J581 L560 M210 M211
      M272 M273 M280 M281 M282 M311 M312 M321 M322 M332 M342 M373 M383
      M391 M392 M412 M511 M512 M521 M522 M531 M532 M540 M630 M640 M650
      M710 M903 M904 P411 P420 P431 P433 P442 P617 9716-19303-N 03697
  *04* D011 D022 D220 F011 F014 F019 F553 F653 G010 G011 G013 G019 G100 H1
      H141 H182 H183 H2 H203 H541 H602 H641 J0 J011 J3 J331 M121 M129 M132
       M139 M150 M210 M211 M272 M280 M281 M311 M312 M321 M322 M332 M342
      M343 M373 M383 M391 M392 M412 M511 M522 M531 M532 M540 M630 M640
      M650 M710 M903 M904 P411 P420 P431 P433 P442 P617 9716-19302-N 03697
  *05* D011 D022 D220 F011 F014 F019 F433 F653 G010 G012 G013 G100 H1 H182
      H2 H202 H401 H481 H601 H641 H685 J0 J011 J012 J3 J331 J371 J581 M1
      M123 M131 M132 M210 M211 M262 M280 M281 M311 M312 M321 M322 M332
      M342 M343 M344 M353 M373 M383 M391 M392 M412 M511 M522 M531 M540
      M630 M640 M650 M710 M903 M904 P411 P420 P431 P433 P442 P617
       9716-19301-N 03697
Ring Index Numbers: 03697
Generic Compound Numbers: 9716-19305-N; 9716-19304-N; 9716-19303-N;
  9716-19302-N; 9716-19301-N
?logoff
```

18jan01 10:04:20 User147493 Session D1885.3 Sub account: 1855.1050-001 RHU/CAS

A06

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出顧公開番号

特開平9-40662

(43)公開日 平成9年(1997)2月10日

(51) Int.Cl. 6	識別記号	庁内整理番号	ΡI					技術表示箇所
C 0 7 D 313/12		CO	7D 3	13/12				
A61K 31/445	ABC		A 6	1 K	31/445	•	ABC	
•	ABF						ABF	
	ACV						ACV	
•	ADA						ADA	
	•	審查請求	未請求	旅館	項の数8	OL	(全 28 頁)	最終質に続く
(21)出題番号	特質平8-129848		(71)	一三人	. 000001	1029		
——————————————————————————————————————					協和數	藤工穀	株式会社	
(22)出顧日 平成8年(1996)5月24日					東京都	千代田	区大手町1丁	目6番1号
			(72)	発明者	強烈	利昭		
(31)優先権主張番号	岭顯平7-124872				静岡県	. 農東郡	長泉町下土狩 !	1194-83
(32) 優先日	平7 (1995) 5 月24日		(72) 3	免明者	金井	文彦	•	
(33)優先権主張国]		静岡県	農東郡,	是桌町下土狩!	1188
. . , <u> </u>			(72) 5	発明者	福井	ひろみ	•	
	·				静岡県	殿東郡!	艮泉町下土狩	198-1
			(72) 5	配明者	大島	悦男		
					静岡県	般東郡 /	長泉町本宿234	<u>l—16</u>
			(72) §	帝明者	比酸	正美		
					静岡県	發東郡县	是泉町納米里3	55-2-103
								最終頁に続く
			1					

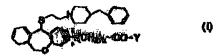
(54) 【発明の名称】 三環式化合物

(57)【要約】

(修正有)

【課題】 サブスタンスP拮抗作用および/またはブラジキニン拮抗作用を有し、アレルギー、鳴息、炎症、鎮痛、自己免疫疾息、ショック等の精寒患の治療科よび/または予防に有用な三環式化合物をたはその基準学的に許容される複名提供する。

【解決手段】 式(I)で表わされる化合物群を代表例とする三環式化合物またはその薬理学的に許容される 塩。



--const-\AO (1)

-008(Of C) (2)

〔式中、- (CH₂)_h - CO-Yは、式(1)、式(2)等の基であり、当該基の置換位置は2又は3である〕

【特許請求の範囲】 式(I) 【請求項1】

【化1】

「式中、WはCH2O、CH2S、CH2CH2または 10 CH=CHを表し、kは0~2の整数を表し、YはOR 1 (式中、R1 は (CH2) R2 (式中、R2は置換 もしくは非置換のアリール、置換もしくは非置換の複素 環基またはNR3R4 (式中、R3 およびR4 は同一ま たは異なって水素または低級アルキルを表す)を表し、 mは0~6の整数を表す}を表す)またはNR⁵ R 6 (式中、R5は水素または低級アルキルを表し、R6 は前記と同義のR1 を表すか、またはR6 とR6 は一緒 になって窒素原子をはさんで形成される置換もしくは非 置換の複素環基を表す)を表し、V¹ およびV² は一方 20 作用、血管透過性亢進作用、血管拡張作用、免疫細胞 が水素で他方がS(CH2)n(式中、nは2~4の整 数を表す) またはCH2 (CH2) g (式中、gは0~ 4の整数を表す)を表すか、または一緒になって一CH (CH₂)。(式中、q'は0~4の整数を表す)を表 し、LはNR7 (式中、R7 は水素または低級アルキル を表す)、または

【化2】

(式中、AはN、CH、C (OR®) (式中、R® は水 素または低級アルカノイルを表す)またはC(NH R®)(式中、R®は水素をかは低機デルカノイルを表 す)を表し、rは1~3~2000を表す)を表し、MはC O, CH (OH), CH TI ANH THE BULL CH 非電機のアリールまたは電機はしては非直接のアラルキ ルを表す)または単結合を表し、pは0~6の整数を表 し、Qは置換もしくは非確構のアリールまたは置換もし くは非地域のアラルギルを表す。一次の大化合 物はたはその範囲争的这种容易が多量が

【前求項2】 WがOHE(OK)を指求項1記載の化合 物。

【請求項3】 YがNR⁶ R⁶ (式中、R⁶ およびR⁶ は前記と同義である)である請求項1記載の化合物。

【調求項4】 V1 およびV2 の一方が水器で他方がS (CH2)』(式中、nは前記と同義である)である請 求項1~3いずれかに記載の化合物。

【請求項5】 V¹ およびV² の一方が水素で他方がC **H2 (CH2)** (式中、qは前記と同義である)であ る請求項1~3いずれかに記載の化合物。

pが1~6の整数である請求項1~3い 【諸求項6】 ずれかに記載の化合物。

2

【請求項7】 pが1~6の整数である請求項4記載の 化合物。

【請求項8】 pが1~6の整数である請求項5記載の 化合物。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、サブスタンスP拮 抗作用および/またはブラジキニン拮抗作用を有し、ア レルギー、喘息、炎症、鎮痛、自己免疫疾息、ショック 等の諸疾患の治療および/または予防に有用な三環式化 合物またはその薬理学的に許容される塩に関する.

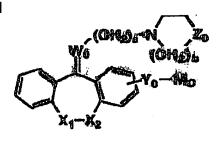
[0002]

【従来の技術】サブスタンスPはアミノ酸11個からな るタキキニンファミリーに属する神経ペプチドであり、 侵害性刺激(痛みあるいは炎症性情報)の神経伝達物質 であることが知られている。また、肥満細胞においてヒ スタミンをはじめとする種々の化学伝達物質の遊離惹起 (単球、リンパ球、多核白血球)の活性化作用、知覚神 経刺激による炎症拡大作用等が知られている。一方、ブ ラジキニンはアミノ酸9個からなるペプチドであり、外 科手術や炎症、アレルギー反応、リウマチ関節炎、気管 支喘息等においてその産生が促進されることが知られて いる。従って、サブスタンスPおよび/またはブラジキ ニンに対する拮抗剤は新しいタイプの抗アレルギー薬、 抗喘息薬、抗炎症薬、あるいは鎮痛薬として有用である ことが期待される。

【0003】一方、式(B) [0004]

【化3】

40



(B)

【0005】[式中、点線を付与した部分は単結合もし くは二重結合を表し、X1 -X1 はCH2 O、CH 2 S、CH2 CH2 またはCH=CHを表し、Wo はS または=CHを表し、aは1~4の整数を表し、Yoは 単結合、CR¹¹R¹² (CH₂)。またはCR¹³=CR¹⁴ (CH₂) (式中、R¹¹、R¹²、R¹³およびR¹⁴は同 ーまたは異なって、水素または低級アルキルを表し、s およびtは0~4の整数を表す)を表し、Mo はCO2 50 R¹⁵ (式中、R¹⁶は水素または低級アルキルを表す)、

CONR16R17 (式中、R16およびR17は同一または異なって、水素または低級アルキルを表す)またはテトラゾリルを表し、ZoはN-Eo-Qo(式中、Eoは単結合、CO、CO2またはSO2を表し、Qoは置換もしくは非置換のアリール、置換もしくは非置換のアラルキル、置換もしくは非置換のアラルケニル、または芳香族複素環基を表す)またはC(Lo)-Eo'-Qo{式中、Loは水素、ヒドロキシルまたは低級アルキルを表し、Eo'は単結合、COまたはCH(OR18)(式中、R18は水素または低級アルキルを表す)を表し、Qoは 10前記と同義である〉を表し、bは1~3の整数を表す〕で表される三環式化合物がトロンボキサンA2に拮抗し、抗アレルギー作用あるいは抗ヒスタミン作用を有することが開示されている(特開平1-308274)。【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、サブスタンスP拮抗作用および/またはブラジキニン拮抗作用を有し、アレルギー、喘息、炎症、鎮痛、自己免疫疾息、ショック等の諸疾患の治療および/または予防に有用な三環式化合物またはその薬理学的に許容される塩を提供することにある。

[0007]

【課題を解決するための手段】本発明は式(I)

[0008]

【化4】

【0009】 [式中、WはCH2 O、CH2 S、CH2 CH: またはCH=CHを表し、kは0~2の整数を表 し、YはOR1 (式中、R1 は (CH2)。R2 (式 中、R2は 関もしくは非置換のアリール、置換もしく は非常機の複素環基またはNR3R4(式中、R3 およ びR¹ は同一または異なって水素または低級アルキルを 表す)を表し、m(ま0~6の整数を表す)を表す)また はNR6 R6 (式中、R6は水素または低級アルキルを 表し、R⁶ は前配と間蠡のR¹ を表すか、またはR⁵ と R6 は一緒になって監索原子をはさんで形成される置換 もしくは非魔機の複素概基を表す)を表し、V1 および V2 は一方が水素で他方がS(CH2)』(式中、nは 2~4の整数を表す) またはCH₂ (CH₂)。(式 中、qは0~4の整数を表す)を表すか、または一緒に なって-CH (CH2) a (式中、q は0~4の整数 を表す)を表し、LはNR7 (式中、R7 は水素または 低級アルキルを表す)、または

[0010]

【化5】



【0011】(式中、AはN、CH、C(OR®)(式中、R®は水素または低級アルカノイルを表す)またはC(NHR®)(式中、R®は水素または低級アルカノイルを表す)を表し、rは1~3の整数を表す}を表し、MはCO、CH(OH)、CH-J(式中、Jは置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のアラルキルを表す)または単結合を表し、pは0~6の整数を表し、Qは置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のアラルキルを表す]で表される三環式化合物またはその薬理学的に許容される塩に関する。

[0012]

【発明の実施の形態】以下、式(I)で表される化合物 を化合物(I)と称し、他の式で表される化合物につい ても同様に称す。式(1)の各基およびその置換基の定 義において、アリールは、炭素数6~10の、例えばフ ェニル、ナフチル等を表す。アラルキルは、炭素数7~ 13の、例えばベンジル、フェネチル、メチルベンジ ル、ナフチルメチル、ベンズヒドリル等を表す。複素環 基または窒素原子をはさんで形成される複素環基は、同 一または異なって、例えばピロリジニル、ピペリジノ、 ピペリジル、ホモピペリジル、ピペラジニル、ホモピペ ラジニル、モルホリノ、モルホリニル、チオモルホリ ノ、チオモルホリニル、ピロリル、イミダゾリル、トリ アゾリル、テトラゾリル、チアゾリル、オキサゾリル、 30 ピリジル、ピリミジニル、インドリニル、インドリル、 ベンズイミダゾリル、キノリル、イソキノリル、テトラ ヒドロイソキノリル、テトラヒドロキノリル、キナゾリ ニル、キヌクリジニル等を表す。

【0013】低級アルキルは、直鎖または分岐していて もよい炭素数1~6の、例えばメチル、エチル、プロピ ル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec ーブチ ル、tertーブチル、ペンチル、ヘキシル等を表す。低級 アルカノイルは、直鎖または分岐していてもよい炭素数 1~6の、例えばホルミル、アセチル、プロピオニル、 40 ブチリル、イソブチリル、パレリル、ピバロイル、ヘキ サノイル等を表す。

【0014】アリール、アラルキル、複繁環基または窒素原子をはさんで形成される複素環基の置換基としては、同一または異なって置換数1~3の、例えばハロゲン、低級アルキル、アラルキル、ヒドロキシ、低級アルコキシまたはトリフルオロメチル等を表す。該置換基において、低級アルキルおよび低級アルコキシの低級アルキル部分は、前記の低級アルキルと同義であり、アラルキルは前記のアラルキルと同義であり、ハロゲンはフッ

50 素、塩素、臭素またはヨウ素の各原子を表す。

【0015】化合物(I)の薬理学的に許容される塩と しては、例えば塩酸塩、硫酸塩、リン酸塩等の無機酸 塩、マレイン酸塩、フマル酸塩、シュウ酸塩、リンゴ酸 塩、クエン酸塩、メタンスルホン酸塩等の有機酸塩、あ るいはアンモニウム塩、リチウム塩、ナトリウム塩、カ リウム塩、マグネシウム塩、カルシウム塩等があげられ る。

*【0016】次に、化合物(I)の製造法について説明 する。

【0017】製造法1

化合物(I)は、次の反応工程に従い製造することがで きる。

[0018]

$$V^1$$
 V^2 V^2 V^1 V^2 V^2 V^1 V^2 V^2

【0019】(式中、W、Y、V¹、V²、L、M、 Q、kおよびpは前記と同義である)

化合物(I)は、後述する化合物(II)と市販または 公知の化合物(III)を縮合させることにより得られ る。縮合方法としては、例えば、化合物(II)を酸ハ 性誘導体に変換した後、塩基の存在下または非存在下に 化合物(III)と縮合する方法(工程1-1)、ある いは縮合剤を用いて化合物(II)と化合物(III) を縮合する方法(工程1-2)等があげられる。

工程1-1

化合物(II)の酸ハロゲン化物は、塩基の存在下また は非存在下に化合物(II)と塩化オキザリル、塩化チ オニル、三臭化リン等のハロゲン化試薬を反応させるこ とにより得られる。反応溶媒としては、塩化メチレン、 クロロホルム等が用いられる。塩基としては、ピリジ ン、トリエチルアミン等が用いられる。化合物(II) に対し、ハロゲン化試薬は1~5当量、塩基は0~5当 量用いられる。反応は、0℃~用いた溶媒の沸点で、1 ~24時間行われる。

【0020】次いで、得られた酸ハロゲン化物と化合物 (III)を塩基の存在下または非存在下に反応させる ことにより、化合物(I)を得ることができる。反応溶 媒としては、塩化メチレン、クロロホルム等が用いられ※ ※る。塩基としては、ピリジン、トリエチルアミン等が用 いられる、酸ハロゲン化物に対し、化合物(I I I) は 1~5当量、塩基は0~5当量用いられる。反応は、0 ℃~用いた溶媒の沸点で、1~24時間行われる。 工程1-2

ロゲン化物あるいは混合酸無水物等のカルボン酸の反応 20 化合物(II)と化合物(III)を縮合剤存在下に反 応させることにより、化合物(I)を得ることができ る。縮合剤としては、1,3-ジシクロヘキシルカルボ ジイミド、1 -エチル-3 - (3 -ジメチルアミノプロ ピル) カルボジイミド・塩酸塩、ヨー化 2-クロロ-1 ーメチルピリジニウム、N, N-ビス (2-オキソー3) ーオキサゾリニジル) ホスフィン酸クロリド等が用いら れる。反応溶媒としては、テトラヒドロフラン、エチル エーテル、ジオキサン、塩化メチレン、クロロホルム等 が用いられる。化合物(II)に対し、化合物(II I)は1~2当量、縮合剤は1~2当量用いられる。反 応は、0℃~用いた溶媒の沸点で、1~24時間行われ る.

【0021】製造法2

化合物(I)において、MがCH(OH)である化合物 (Ib)は、次の反応工程によっても製造することがで

[0022]

【化7】

【0023】(式中、W、Y、V1、V2、L、Q、k およびpは前記と同義である)

工程2

化合物(I)においてMがCOである化合物(Ia)

★を、メタノール、エタノール等の溶媒中、水素化ホウ素 ナトリウム等の還元剤と反応させることにより、化合物 (Ib)を得ることができる。化合物(Ia)に対し、

★50 還元剤は1~20当量用いられる。反応は、0℃~室温

で、0.1~12時間行われる.

【0024】次に、原料物質として用いられる化合物 (II)の製造法について説明する。化合物(II)に おいて、V1 およびV2 は一方が水素で他方がS(CH 2) n (式中、nは前記と同義である)を表すか、一緒 になって一CH(CH2)g'(式中、g'は前記と同義 である)を表す化合物は、特開平1-308274に記 載されているか、もしくは記載の方法に準じて製造する ことができる。

OCH-

(IV)

*【0025】化合物(II)において、V1 およびV2 は一方が水素で他方がCH2 (CH2) (式中、qは 前記と同義である)を表す化合物は、例えば以下に述べ る方法(製造法3~6)により製造することができる。 【0026】製造法3

8

化合物(II)において、qが2である化合物(II a)は、次の反応工程に従い製造することができる。 [0027]

【化8】 (CH²)*-COOCH² **(V)**

HL-M-(CH2)p-Q 工程3-2

(CH₂)_k-COOCH₂

(VI) **(VIII)** 工程3-3

公知方法

工程 3-1

(ile)

【0028】(式中、W、L、M、Q、kおよびpは前 記と同職である)

工程3-1

化合物 (VI) は、化合物 (IV) から特開平5-20 2021に記載の方法で得られる化合物(V)をハイド ロボレーション反応、次いで過酸化物と反応させること により得ることができる。例えば、化合物(V)をテト ラヒドロフラン等の有機溶媒中、ボランーテトラヒドロ フラン溶液等のボラン試薬と反応させる。化合物(V) に対し、ボラン試薬は1~20当量用いられる。反応 は、0℃〜室温で、1~12時間行われる。次いで、生 成物を塩基性条件下で過剰の30%過酸化水素水溶液等 の過酸化物と反応させる。反応は、0℃~室温で、1~ 6時間行われる。

工程3-2

化合物(VIII)は、化合物(VI)の水酸基をメタ ンスルホニルオキシ、p-トルエンスルホニルオキシ、※50

※ハロゲン等の脱離基に変換した化合物 (化合物 (C)と 称す)と、化合物(VII)を反応させることにより得 ることができる。化合物(VI)の水酸基の脱離基への 変換は、化合物(VI)をピリジン中、1~2当量のメ タンスルホニルクロリド、pートルエンスルホニルクロ リド、または三臭化リン等のハロゲン化試薬と反応させ ることにより行われる。反的は、0℃~室温で、0.5 ~6時間代われる。

【0029】次に、得られた化合物(C)を、塩基の存 在下または非存在下に化合物(VII)と反応させるこ とにより、化香物(VIII)を得ることができる。溶 媒としては、塩化メチレン、クロロホルム、酢酸エチ ル、トルエン等が用いられ、塩基としてはピリジン、ト リエチルアミン等が用いられる。化合物 (B) に対し、 塩基は0~2当量、化合物(VII)は1~2当量用い られる。反応は、0℃~用いた溶媒の沸点で、1~6時 間行われる。

工程3-3

化合物(IIa)は、化合物(VIII)のアルカリ加 水分解により得ることができる。溶媒としては、水を含 んだメタノールまたはエタノール等が用いられ、アルカ リとしては、1当量~過剰量の水酸化ナトリウム、水酸 化カリウム、水酸化リチウム等が用いられる。反応は、*

9

*室温~用いた溶媒の沸点で、1~6時間行われる. 【0030】製造法4

化合物(II)において、qが1である化合物(II b)は、次の反応工程に従い製造することができる。 [0031]

【化9】

【0032】(式中、W、L、M、Q、kおよびpは前 記と同義である)

(X)

工程4-1

化合物(IX)は、化合物(V)をエーテル、テトラヒ ドロフラン等と水の混合溶媒中、触媒量の四酸化オスミ ウムおよび1~10等量の過ヨウ素酸ナトリウムと反応 させることにより得ることができる。反応は、○℃~用 いた溶媒の沸点で、1~24時間行われる。

工程4-2

化合物(X)は、化合物(IX)をメタノール等の溶媒 中(中性~弱酸性)、シアノ水素化ホウ素ナトリウム等 の還元剤存在下に、化合物(VII)と反応させること※ ※により得ることができる。化合物(IX)に対し、化合 物(VII)は1~10当量、還元剤は1~20当量用 いられる。反応は、0℃~室温で、1~12時間行われ る.

工程4-3

化合物(IIb)は、工程3-3と同様の方法により、 化合物(X)から得ることができる。

【0033】製造法5

(Ilb)

化合物(II)において、gがOである化合物(II c)は、次の反応工程に従い製造することができる。

[0034]

【0035】 (式中、W、L、M、Q、kおよびpは前 記と同義である)

化合物 (XII)は、特開平5-132477に開示さ れている方法により、化合物 (XI) から得られる。化 合物(IIc)は、工程4-2および工程4-3と同様 の方法により、化合物(XII)から得ることができ る.

* [
$$\{L11\}$$
]

(CH_2)_q— CH_2 OH

(CH_2)_q— $COOCH_3$

((CH_2))_q— $COOCH_3$

((CH_2))_q— (CH_2))_p— (CH_2))_p— (CH_2))_q— (CH_2) ((CH_2) ((CH_2))_q— (CH_2) ((CH_2))_q— (CH_2) ((CH_2) ((CH_2) ((CH_2) ((CH_2))_q— (CH_2) ($($

【0038】(式中、W、L、M、Q、k、pおよびq は前記と同義である)

化合物(XVI)は、前記の工程3-2と同様の方法に より化合物(XV)から、または前記の工程4-2と同 様の方法により化合物 (XIV) から得ることができ る. 化合物 (IId) は、前記の工程3-3と同様の方 法により、化合物(XVI)から得ることができる。

【0039】上記製造法における中間体および目的化合 物は有機合成化学において常用される精製法、例えば沪 過、加田、光浄、乾燥、機構、再結晶、各種クロマトグ ラフィー等により、単一情報することができる。また、 中間依においては特に情報することなく次の反応に供す ることも可能である。化合物(I)の塩を取得したい場 合、化合物 (I) が塩の形で得られる時にはそのまま精※ *【0036】製造法6

化合物(II)において、V¹ およびV² は一方が水素 で他方がCH2 (CH2)。(式中、gは前記と同義で ある)を表す化合物は、以下の方法により製造すること ができる。

12

[0037]

※製すればよく、また遊離の形で得られる時には、適当な 溶媒に溶解もしくは懸濁させ、酸または塩基を加えて形 成させればよい。

【0040】また、化合物(I)またはその薬理学的に 許容される塩は、水または各種溶媒との付加物の形で存 在することもあるが、これら付加物も本発明に包含され 30 る。上記製造法により得られる化合物(I)には、すべ ての可能な立体異性体およびこれらの混合物も包含され る。各種製造法によって得られる化合物 (I) の具体例 を第1表に示す。表中、Me、Et、Acはそれぞれメ チル、エチル、アセチルを表す。

[0041] 【表1】

	14
第1表(1)	(CH ₂)t-CO-Y
	~~·,

化合物	置換位置	(CH ₂)k-CO-Y
1	2	-conh~N_0
2	2	-CONH
3	2	-coo NO
4	2	-conh~n
5	2	-coo NN492
6	2	-conf
7	2	-conh
8	2	-conf
9	2	-CONH
10	2	-conf
11	2	-con
12	2	-con_nme
18	2	-conOn_O
14	2	-00N
15	2	-con
16	2	-00N()s
17	8	-00N()p

第1表(2)

1 6

化合物	置換位置	—(CH _{2)k} —CO−Y
18	2	-conh\n\o
19	2	-conf \n
20	2	-conh N
21	2	—conh\n_s
22	2	-conh N
23	2	-conh
24	2	-conh
25	2	-conh \ \n_o
26	2	-conf \\n
27	2	-conhn
28	2	-con -oh
29	. 2	-001
30	2	-com &
31	2	MANUA D
\$2	3	

[0043]

* *【表3】

第1表(3)

V-L-M-(CH ₂) _p -Q	_
(CH ₂) _k -CO-Y	

化合物	V-L-II-(CH ₂) _p -Q	(CH₂) _k COY
33	~s^NOMeO	-CONH N
34	~s~n\\\	-conh \ N_0
35	S N N N	-conh \ N O
36	S~NH~	-conh
37	S~NH MeO	-CONH
38		-com/\n_0
39	\sim N \bigcirc	-CONHÍ \NO
. 40		-CONH \N
41		^comi\n\o
	and the second s	The same of the sa

[0044]

* *【表4】

,	
化合物	V ¹ Lм-(СН ₂) _p -Q
42	~\O\\
43	MeO N-N-N-
44	N_N-\OMe
45	NN-{OMe
46	~N _N- ()-ci
47	~NOH CF3
48	~N\\F
49	~NOH-F
50	NHAC
51	
52	
53	

【0045】化合物(I)は、サブスタンスP指抗作用 および/またはブラジキニン括抗作用を有し、アレルギ 一、喘息、炎症、鎮痛、自己免疫疾息、ショック等の諸 疾患の予防および/または治療に、より詳細には喘息、 咳、気管支炎、鼻炎、鼻漏、閉塞性肺疾患[例えば肺気 **踵等**]、痰、肺炎、システミック・インフラマトリー・ レスポンス・シンドローム(systemic inflammatory re*50 外傷[例えば創傷、火傷(熱傷)等)、発疹(皮疹)、発

*spons syndrose (SIRS)]、敗血性ショック、過敏性シ ョック、エンドトキシンショック、成人呼吸促迫症候 群、播種性血管内凝固症、関節炎、リウマチ、変形性関 節症、腰痛、炎症誘発骨吸収、粘膜炎、春季カタル、ぶ どう膜炎、紅彩炎、紅彩毛様体炎、頭痛、片頭痛、歯 痛、背痛、表在性疼痛、癌性疼痛、術後疼痛、腱部痛、

20

赤(紅斑)、湿疹または皮膚炎[例えば接触性皮膚炎、 アトビー性皮膚炎等〕、蕁麻疹、帯汰庖疹痛、掻痒、乾 癬、苔癬、炎症性腸疾患[例えば潰瘍性大腸炎、クロー ン病等〕、下痢、肝炎、膵炎、胃炎、食道炎、食物性ア レルギー、潰瘍、過敏性腸症候群、腎炎、アンジナ、歯 周炎、浮腫、遺伝性の脈管神経性浮腫、脳浮腫、低血 圧、血栓症、心筋梗塞、脳血管撃縮、うっ血、凝血、痛 風、中枢神経障害、早産、動脈硬化、胃切除後ダンピン グ症候群、カルシノイド症候群、精子運動性の変動、糖 尿病性神経障害、神経痛、移植時の拒絶等の治療および 10 /または予防に有用である。更にサブスタンスPおよび /またはブラジキニンが、例えばプロスタグランジン、 ロイコトリエン、ヒスタミン、トロンボキサン等のメデ ィエーターの放出に関与することが知られていることか ら、化合物(I)はそれらのメディエーターが誘発する 疾患の治療および/または予防に有用である。

【0046】次に、化合物(I)の薬理作用を試験例を 用いてさらに詳しく説明する。

【0047】試験例1 サブスタンスP受容体結合実験 R. Quirionちの方法 [J. Neurosc i.、6巻、2187頁(1986)]に従った。 組織の調製

#性ラットの大脳を、組織調製用緩衝液-1(50mM Tris/HCl、pH7.4、120mM NaCl、5mM KCl)でホモジネートした後、遠心分離(49000g、10分間)した。沈澱を組織調製用緩 衝液-2(50mM Tris/HCl、pH7.4、300mM KCl、10mM EDTA・2Na)で* *ホモジネートし、30分氷冷後、同様の遠心操作を行った。沈澱に、50mMトリス塩酸緩衝液(pH7.4)を加え、同様の遠心操作を行い、この洗浄操作を更に2回繰り返した。最終的に得られた沈澱を、50mMトリス塩酸緩衝液(pH7.4)で懸濁し、組織溶液(約1.2mg蛋白質/ml)とした。

12mM MnCl2、0.08% BSA、160μg /ml bacitracin、8μg/ml chy 10 mostatin、16μg/ml leupeptin、16μg/ml phosphoramidonを含む50mMトリス塩酸緩衡液(pH7.4)を調製し、反応用緩衝液とした。各反応用チューブに、この緩衝液とリガンドとして40PMの〔125 I〕-Bolton HunterlabeledーサブスタンスP、上記の組織ホモジネート、および試験化合物を加えて25℃、20分間インキュベーションした。その後、0.3%のポリエチレンイミン処理したガラスフィルター上で吸引沪過した。フィルターは、氷冷した50mMトリス塩酸緩衝液(pH7.4)で3回洗浄し、それをガンマカウンーで1分間放射活性を測定した。非特異的結合量は、1μMの非標識サブスタンスPの存在下で測定し

【0048】特異的結合量は全結合量から非特異的結合 量を差し引くことにより求めた。代表的な化合物の結果 を第2表に示す。

【0049】 【表5】

た。

受容体結合実験

第2表

		阻害率、%
化合物	塩	(10 ⁻⁶ 以)
1	0. 5フマル驗爐・0. 4水和制	8 5
2	0. 五フマル酸塩 + 0. 6水和物	95
8	246 4 1. 1 水和的	9 9
4	2 4 1 2 1 2 水和物	8 7
5	2塩酸塩・0. 4水和物	94
8	0. 6フマル酸塩	118
9	0. 5フマル製造・0. 5水翻動	8 0
1.2	2 線像線・1 水和物	99
1 4	1 塩酸塩・1. 6 水和物	9 0

【0050】就験例2 モルモットにおけるサブスタンスP誘発気値浮脈印制試験

化合物のin vivoにおける気道浮腫に対する抑制作用を、M. Muraiら(M. Murai et a l., J. Pharmacol. Exp. Ther.、262巻、403頁、1992年)の文献記載の方法を一部改変した方法により評価した。即ち、麻酔したHartley系雄性モルモットを用い、サブスタンスP(※50

※2.6μg/ml; Sigma社製)を含む色素エバンスブルー(10mg/ml; 東京化成工業社製)溶液を2ml/kg静脈内投与し、気道に漏出した色素を浮腫の指標とした。サブスタンスPを注入10分後、腹部大動脈を切断、開胸した。肺動脈から50mlの生理食塩液を注入、肺の中の血液を洗い流した後、気道系を摘出した。肺は肺実質を取り除き細気管支だけにし、気管、気管支と合わせて1N KOH1ml中に浸し、37

で、24時間で完全に溶解させた。0.6Nリン酸ーアセトン混液(5:13 v/v)9m1で中和および色素の抽出をした。遠心(3000 rpm、10分間)により不溶物を沈澱させ、上清中の吸光度(波長620 nm)を測定し、予め作製しておいた検量線より色素量を求めた。色素量は標本当たりの量(μg/mg)とし、サブスタンスPを含まない色素だけを投与した群の漏出色素量を差引き表した。被検化合物は、サブスタンスP投与前10分にジメチルスルホキシドに溶解し、静脈内に投与した。この試験において、化合物14(投与量1mg/kg)は48%の抑制作用を示した。

【0051】試験例3 ブラジキニン受容体結合阻害実験

S. G. Farmerらの方法 [J. Pharmaco 1. Exp. Ther.、248巻、677頁(198 9)] に従った。

組織の調製

ハートレー系雄性モルモットの回腸を摘出し、緩衡液 (25mMトリメチルアミノエタンスルホン酸(TES)、1mM 1,10-フェナンスロリン、1μMペプスタチンA、1μM * 20

*ロイペプチン、100μM PMSF、0.014%バシトラシン(pH 6.8))中で破砕後50000 ×gで10分間遠心し、沈澱を再 懸濁した。遠心と洗浄を2回繰り返した後、最終の沈澱 に緩衝液 (25mM TES、1mM 1,10-フェナンスロリン、0.014%バシトラシン、 pH6.8)を加えて懸濁し、結合実験 に用いる組織ホモジネートとした。

24

受容体結合実験

反応は最終濃度0.3nMの[³H]ブラジキニン50μL、試験化合物50μLに上記の組織ホモジネート400μLを加えて25℃、90分間反応を行った。反応終了後減圧下急速ろ過によって組織に結合した[³H]ブラジキニンを非結合ブラジキニンと分離した。液体シンチレーションカウンターでフィルター上の放射活性を測定した。全結合量算出には薬物溶液の代わりに緩衝液を、非特異的結合量算出には1μMの非標識ブラジキニンを用いた。

【0052】特異的結合量は全結合量から非特異的結合 量を差し引くことにより求めた。代表的な化合物の結果 を第3表に示す。

[0053]

【表6】

化合物	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	阻害率、% (10 ⁻⁴ M)
1 8	1 塩酸塩	9 5
19	2 塩酸塩・1.5 水和物	98
20	2塩酸塩・1.5水和物	8 9
2 1	2シュウ酸塩・1水和物	98
2 2	2 塩酸塩	9 7
2 3	1. 5フマル酸塩・2. 5水和物	93
2 4	1シュウ酸塩・2水和物	9 0
4 8	2シュウ酸塩・0.5水和物	93
5 3	2シュウ酸塩・1. 5水和物	88

【0054】試験例4 急性毒性試験

体重20±1gのddy系雄性マウスを用い、被核化合物を腹腔内に投与した。投与7日後の死亡状況を観察し、最小死亡量(MLD)を求めた。化合物14は、100mg/kgの投与量において死亡例を認めなかった。化合物(I)またはその薬理学的に許容される塩は、そのまま単独で投与することも可能であるが、通常各種の医薬製剤として使用するのが好ましい。

【0055】投与経路は、治療に際し最も効果的なものを使用するのが好ましく、経口または、直腸内、口腔内、皮下、筋肉内および静脈内等の非経口をあげることができる。投与形態としては、カプセル剤、錠剤、顆粒剤、シロップ剤、乳剤、座剤、注射剤等がある。
【0056】経口投与に適当な、例えば乳剤およびシロップ剤のような液体調製物は、水、ショ糖、ソルビット、果糖等の糖類、ポリエチレングリコール、プロピレ※50

※ングリコール等のグリコール類、ゴマ油、オリーブ油、 大豆油等の油類、pーヒドロキシ安息音をエステル類等 の防腐剤、ストロベリーフレーバー、ペパーミント等の フレーバー類等を使用して製造できる。また、カプセル 剤、焼剤、飲剤および類が別等は、乳糖、ブドウ糖・ショ糖、マンニット等の関形剤、製粉、アルギンをクロック 等の崩壊剤、ステアリン酸をグネシウム、タルシーク 沢剤、ボリビニルアルコール、ヒドロキシブでは少少で プロース、ゼラチン等の両型剤等を用いて製造できる。 【0057】非経口投与に適当な製剤は、好ましくは受容者の血液と等張である活性化合物を含む減菌水性製剤 からなる。例えば、注射剤は塩溶液、ブドウ糖溶液また は塩水とブドウ糖溶液の混合物からなる担体等を用いて 注射用の溶液を調製する。局所製剤は、活性化合物を1 種もしくけるわじ上の複質。例えば飲油、多価アルコー 25 ルまたは局所医薬製剤に使用される他の基剤中に溶解または懸濁して調製される。

【0058】腸内投与のための製剤は、通常の担体、例えばカカオ脂、水素化脂肪、または水素化脂肪カルボン酸等での座剤として提供される。また、これら非経口剤においても、経口剤で例示した希釈剤、香料、防腐剤(抗酸化剤を含む)、賦形剤、崩壊剤、滑沢剤、結合剤、界面活性剤、可塑剤等から選択される1種もしくはそれ以上の補助成分を添加することもできる。

【0059】化合物(I)またはその薬理学的に許容される塩の有効用量および投与回数は、投与形態、患者の年令、体重、治療すべき症状の性質もしくは重篤度により異なるが、通常投与量は1日当たり、1~1000mg/人であり、投与回数は1日1回または数回に分割して投与するのが好ましい。以下に、実施例、参考例および製剤例を示す。

[0060]

【実施例】

【0061】実施例1

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ベ 20 ンジルピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド (化合物1)

11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピンー2-カルボン酸のナトリウム塩1.00g、ジクロロメタン150m1の混合物に、トリエチルアミン0.35m1、オキザリルクロリド0.44m1を加え、室温で5時間撹拌した。溶媒および過剰のオキザリルクロリドを留去した後、残査をジクロロメタン100m1に溶解30し、4-(2-アミノエチル)モルホリン0.83m1を加え、室温で終夜撹拌した。反応終了後、反応液に水を加えジクロロメタンで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄後、無水液酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出溶媒、クロロホルム/メタノール=5/2)で精製し、化合物1を1.10g得た。

1 HNMR (&, ppm, CDC1s): 1.2-1.7 (m, 5H), 1.8-1.9 (m, 2H), 2.3-2.7 (m,8H), 2.51 (d, 2H, J=6.6 Hz), 2.59 (t, 2H, J=6.1 Hz), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.7-3.8 (m, 4H), 4.88 及び 6.41 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 5.04 (s, 1H), 6.67 (brs,1H), 6.86 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.46 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.79 (d, 1H, J=2.3 Hz).

化合物 1、1.10gのアセトン50m 1 溶液にフマル酸0.11gを加え室温で2時間撹拌し、析出した結晶をろ取することにより、化合物1の0.5フマル酸塩・0.4水和物を0.92g得た。

融点:179-180℃

IR (KBr 錠剤; cm-1): 2484, 1654, 1639, 1495, 131

6, 1252, 1119, 1011, 725, 701, 667.

【0062】実施例2

N-[2-(2-ピリジル) エチル]-11-[2-(4-ペンジルピペリジノ) エチル] チオー6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物2)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベン ゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 10 塩0.50gと2-(2-アミノエチル)ピリジン0. 36mlを用いて、化合物2を0.40g得た。 ¹HNMR(る,ppm,CDCl₃):1.2-1.7(m,5H),1.8-2.0 (m,2H),2.3-2.7(m,4H),2.50(d,2H,J=6.9 Hz), 2.7-2.9(m,2H),3.08(t,2H,J=6.1 Hz),3.8-3.9 (m,2H),4.87及び6.40(ABq,2H,J=12.7 Hz),5.04 (s,1H),6.83(d,1H,J=8.6 Hz),6.85(brs,1H),7.1-7.4(m,10H),7.4-7.5(m,2H),7.6-7.7(m,1 H),7.63(dd,1H,J=2.3 Hz,8.6 Hz),7.78(d,1H,J=2.3 Hz),8.57(d,1H,J=4.0 Hz).

9 実施例1の方法に準じて、化合物2を0.39g用いて、化合物2の0.5フマル酸塩・0.6水和物を0.32g得た。

融点:175-177 ℃

IR (KBr 錠剤; cur¹): 1701, 1638, 1606, 1571, 149 2, 1319, 1254, 1004, 749, 700.

【0063】実施例3

2-モルホリノエチル 11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピン-2-カルボキシラート(化合物3)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンソ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム塩0.75gと4-(2-ヒドロチンエチル)モルホリン0.37m1を用いて、化合物3を0.35g得た。1HNR(δ,ppm,CDCls):1.3-2.0(m,7H),2.3-2.8(m,14H),3.72(t,4H,J=4.7 Hz),4.42(t,2H,J=5.9 Hz),4.89 及び 6.45(ABq,2H,J=12.9 Hz),5.06(s,1H),6.85(d,1H,J=8.4 Hz),7.1-7.3(m,9H),7.77(dd,1H,J=2.2 Hz),8.4 Hz),7.97(d,1H,J=2.2 Hz).

化合物3、0.33gに5.4 MMRーエタノール溶液3m1を加え室温で撹拌した。減圧下に溶媒および過剰の塩酸を留去し、残るを可能エチルーイソプロビルエーテルでトリチュレーションすることにより、化合物3の2塩酸塩・1.1水和物を0.27g得た。

融点:190 ℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2920, 1702, 1611, 1496, 1450, 1277, 1241, 1129, 1115.

50 【0064】実施例4

N-(2-ピペリジノエチル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物4)

実施例3の方法に準じて、化合物4を0.31g用いて、化合物4の2塩酸塩・2水和物を0.26g得た。 融点:210℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹):2920, 1655, 1490, 1445, 1245, 1231.

【0065】実施例5

2-ジメチルアミノエチル 11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキシラート(化合物5)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベン ゾ[b, e] オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩0.50gと2-ジメチルアミノエタノール0.30 m1を用いて、化合物5を0.62g得た。

¹ HNMR (& , ppm, CDCl₃): 1.2-2.0 (m, 7H), 2.3-2.8 (m, 10H), 2.33 (s, 6H), 4.3-4.5 (m, 2H), 4.89 及 び 6.45 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 5.06 (s, 1H), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.79 (dd, 1H, J=2.2 Hz, 8.7 Hz), 7.98 (d, 1H, J=2.5 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物5を0.62g用いて、化合物5の2塩酸塩・0.4水和物を0.25g得た。

融点:209 ℃(分解)

IR (KBr 統河; cm⁻¹): 2896, 1717, 1609, 1496, 1457, 1279, 1248, 1201.

【0066】 実施例6

N-(3-フェニルプロピル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物6)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベン ゾ[b, e] オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩0.50gと3-フェニルプロピルアミン0.43m 1を用いて、化合物6を0.49g得た。 ¹HNMR (る, ppm, CDC1₃): 1.2-1.6 (m, 5H), 1.8-2.0 (m, 4H), 2.3-2.8 (m,10H), 3.4-3.5 (m, 2H), 4.86 及び 6.41 (ABq, 2H, J=12.7 Hz), 5.01 (s, 1H), 6.11 (brs, 1H), 6.81 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.3 (m, 14 H), 7.36 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.68 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物6を0.49g用いて、化合物6の塩酸塩・0.6水和物を0.34g得た。

10 融点:116-118℃

IR(KBr 錠剤; cm⁻¹): 2924, 1648, 1496, 1454, 125 7. 1236.

【0067】実施例7

Nーベンジルー11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物7)実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジルビペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム20塩2.00gとベンジルアミン0.96mlを用いて、化合物7を1.93g得た。

¹ HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.2-1.7 (m,5H), 1.8-1.9 (m, 2H), 2.3-2.7 (m, 4H), 2.50 (d, 2H, J=6.6 Hz), 2.7-2.8 (m, 2H), 4.60 (brs, 2H), 4.87 及び 6.41 (ABq, 2H, J=12.7 Hz), 5.02 (s, 1H), 6.40 (brs, 1 H), 6.84 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.4 (m, 14H), 7.52 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.77 (d, 1H, J=2.3 Hz)

化合物7、1.92gのイソプロパノールーエタノール 混合溶液にシュウ酸0.31gを加え室温で撹拌し、析 出した結晶をろ取することにより、化合物7の0.5シ ュウ酸塩・0.2水和物・0.5イソプロパノール付加 物を1.66g得た。

融点:159-160 ℃

IR (KBr & 70; cm⁻¹): 2922, 1604, 1495, 1315, 123 5, 1220, 761.

【0068】実施例8

N-[(2-メトキシフェニル)メチル]-11-[2 -(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオー6,11 40 -ジピドロジペンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボ また。「(1668)

東京の1の方法に単じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]チオー6、11-ジヒドロジベン ゾ[b, e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩2.00gと2-メトキシフェニルメチルアミン1. 15m1用いて、化合物8を2.00g得た。

1HNMR (る, ppm, CDCl3): 1.2-1.7 (m, 5H), 1.8-1.9 (m, 2H), 2.3-2.7 (m,4H), 2.50 (d, 2H, J=6.6 Hz), 2.7-2.9 (m, 2H), 3.88 (s, 3H), 4.62 (d, 2H,J=5.5 H 50 z), 4.87 及び 6.41 (ABq, 2H, J=12.7 Hz), 5.02 (s,

1H), 6.56 (t,1H, J=5.5 Hz), 6.83 (d, 1H, J=8.6 Hz), 6.9-7.0 (m, 2H), 7.1-7.4 (m,11H), 7.46 (dd, 1 H, J=2.1 Hz), 8.6 Hz), 7.77 (d, 1H, J=2.1 Hz). 実施例1の方法に準じて、化合物8を0.88g用いて、化合物8の0.5フマル酸塩を0.81g得た。融点:189-190℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2918, 1638, 1605, 1493, 1244, 1114, 701.

【0069】実施例9

N-[(2-ピリジル) メチル]-11-[2-(4- ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6、<math>11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピン-2-カルボキサミド (化合物9)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベン ゾ[b, e] オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩2.01gと2-アミノメチルピリジン0.84ml を用いて、化合物9を1.44g得た。

1 HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.2-2.2 (m, 7H), 2.3-2.9 (m, 8H), 4.74 (d, 2H, J=5.0 Hz), 4.88 及び 6.42 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 5.05 (s, 1H), 6.87 (d,1H, J=8.4 Hz), 7.1-7.7 (m, 14H), 7.84 (d, 1H, J=2.5 Hz), 8.56 (d, 1H, J=4.0 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物9を1.34g用いて、化合物9の0.5フマル酸塩・0.5水和物を1.12g得た。

融点:191-193 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2920, 2360, 1634, 1602, 154 1, 1493, 1239.

【0070】実施例10

N-[2-(インドール-3-イル) エチル] -11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カ ルボキサミド(化合物10)

実施例1の方法に難じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベン ゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩0.89gとトリプタミン0.58gを用いて、化合 物10を0.63g得た。

1 HNMR (る, ppm, CDCls): 1.2-1.8 (m, 5H), 1.8-2.0 40 (m, 2H), 2.3-2.7 (m, 4H), 2.50 (d, 2H, J=6.6 Hz), 2.7-2.9 (m, 2H), 3.09 (t, 2H, J=6.4 Hz), 3.7-3.8 (m, 2H), 4.85 及び 6.31 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 4.90 (s, 1H), 6.14 (t, 1H, J=5.6 Hz), 6.80 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.0-7.4 (m, 14H), 7.50 (d, 1H, J=2.0 Hz), 7.66 (d, 1H, J=7.9 Hz), 8.76 (brs, 1H).

実施例3の方法に準じて、化合物10を0.62g用いて、化合物10の塩酸塩・酢酸エチル付加物を0.54g得た。

融点:158-160 ℃

3 0 IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2908, 1633, 1607, 1561, 149 3, 1252, 703.

【0071】実施例11

1-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-イルカルボニル] -1, 2, 3, 4-テトラヒドロイソキノリン (化合物11)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベン 10 ゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩2.01gと1,2,3,4-テトラヒドロイソキノ リン1.02mlを用いて、化合物11を1.49g得 か。

1HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.2-2.0 (m, 8H), 2.3-3.0 (m, 9H), 3.6-4.1 (m,2H), 4.6-5.0 (m, 2H), 4.88 及び 6.38 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 4.99 (s, 1H), 6.86 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.1-7.3 (m, 14H), 7.44 (d, 1H, J=2.0 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物11を1 01g用い 0 て、化合物11の塩酸塩・1.5水和物を1.01g得 た。

融点:137-140 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2924, 2366, 1618, 1498, 143 1, 1237.

【0072】実施例12

4-メチル-1-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピン-2-イルカルボニル]ピペラジン(化合物12)

第施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]チオー6、11-ジヒドロジベン ゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩0.50gと1-メチルピペラジン0.54mlを用いて、化合物12を0.46g得た。

1HNMR (る, ppm, CDCl3):1.2-1.9 (産, 7H), 2.3-2.8 (産, 12H), 2.32 (s, 3H), 3.5-3.8 (産, 4H), 4.87 及び6.36 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 4.99 (s, 1H),6.83 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.4 (産, 10H), 7.38 (d, 1H, J=2.3 Hz).

9 実施例3の方法に準じて、化合物12を0.44g用いて、化合物12の2塩酸塩・水和物を0.30g得た。 酸点:200℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2910, 1642, 1451, 1420, 125

【0073】実施例13

4 - ベンジル-1 - [11 - [2 - (4 - ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6, 11 - ジヒドロジベング [b, e] オキセピン - 2 - イルカルボニル] ピペラジン(化合物13)

50 実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル

ビペリジノ) エチル] チオー6, 11ージヒドロジベン ゾ[b, e] オキセピンー2ーカルボン酸のナトリウム 塩0.50gと1ーベンジルピペラジン0.53m1を 用いて、化合物13を0.38g得た。

31

1 HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.2-1.9 (m, 5H), 2.3-2.8 (m, 14H), 3.5-3.8 (m,6H), 4.86 及び 6.35 (ABq, 2 H, J=12.9Hz), 4.98 (s, 1H), 6.82 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 15H), 7.38 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物13を0.37g用いて、化合物13の2塩酸塩・1.5水和物を0.38g 10 得た。

融点:185-188 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2920, 1620, 1435, 1250, 1235, 745.

【0074】実施例14

4-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオ-6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-イルカルボニル] モルホリン (化合物14)

11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピンー2-カルボン酸2.11g、モルホリン〇.42ml、テトラヒドロフラン50mlの混合物に1-エチルー3ー(3-ジメチルアミノプロピル) カルボジイミド・塩酸塩〇.92gを加え、室温で12時間撹拌した。反応終了後、反応液に水を加え酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出溶媒、クロロホルム/メタノール=25/1)で精製し、化合物14を2.23g得た。1HNMR(δ,ppm,CDCl3):1.4-1.8(m,4H),2.0-2.3(m,1H),2.4-3.2(m,8H),3.4-3.9(m,1H),4.88及び6.30(Alq,2H,J=12.9Hz),5.05(s,1H),6.85(d,1H,J=8.6Hz),7.1-7.4(m,10H),7.41(d,1H,J=1.4Hz)

実施例3の方法に難じて、化合物14を2.23g用いて、化合物14の場象塩・1.5水和物を1.32g得た

融点:139-141 C

IR (RBr 6571; cm⁻¹): 2936, 2850, 2368, 1605, 145 40 7, 1430, 1249, 1233, 1116.

【0075】集體例15

1-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-イルカルボニル] ピペリジン (化合物15)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベン ゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸のナトリウム 塩2.00gとピペリジン0.87mlを用いて、化合 物15を1.99g得た。

【 O O 7 6 】 1 HNMR (δ , ppm, CDCl3):1.1-1.7 (m, 5H),1.8-1.9 (m, 2H),2.3-2.7 (m, 4H),2.51 (d, 2 H, J=6.9 Hz),2.7-2.9 (m, 2H),3.3-3.8 (brs, 4H),4.86及び 6.35 (ABq, 2H, J=12.9 Hz),4.99(s,1H),6.82(d,1H,J=8.3 Hz),7.1-7.3(m,10H),7.36(d,1H,J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物15を1.95g用いて、化合物15の塩酸塩・0.8水和物・0.8イソプビルエーテル付加物を0.11g得た。

融点:132-134 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2932, 1611, 1497, 1437, 1254, 1234, 1125, 1009, 701.

【0077】実施例16

4-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6、<math>11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピン-2-(1)イルガルボニル[16)

4)実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオ 20ピペリジノ)エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベン-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピンーゾ[b,e]オキセピンー2-カルボン酸のナトリウム2-カルボン酸2.11g、モルホリン0.42ml、塩2.00gとチオモルホリン0.89mlを用いて、テトラヒドロフラン50mlの混合物に1-エチルー3化合物16を2.06g得た。

¹HNMR (δ , ppm, CDCl₃): 1.2-1.8 (m, 5H), 1.8-1.9 (m, 2H), 2.3-2.7 (m,8H), 2.51 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.7-2.9 (m, 2H), 3.7-4.0 (brs, 4H), 4.87 及び 6.36 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 4.99 (s, 1H), 6.84 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.0-7.3 (m, 10H), 7.35 (d, 1H, J=2.3 Hz).

0 実施例7の方法に準じて、化合物16を0.82g用いて、化合物16のシュウ酸塩・3水和物を0.62g得た。

融点:127 ℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm¹): 2923, 1630, 1405, 1230, 1046, 720.

【0078】実施例17

4-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] チオー6, 11-ジヒドロジベング [b, e] オキセピン-3-イルカルボニル] モルホリン (化合物17)

実施例14の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-3-カルボン酸1.04gとモルホリン0.22m1を用いて、化合物17を0.95g得た。

1HNMR (お, ppm, CDCl3):1.2-1.7 (m, 5H), 1.8-2.0 (m, 2H), 2.3-2.7 (m, 4H), 2.52 (d, 2H, J=6.6 Hz), 2.7-2.9 (m, 2H), 3.3-3.8 (brs, 8H), 4.87 及び 6.33 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 5.01 (s, 1H), 6.87 (d, 1H, 50 J=1.7 Hz), 6.93(dd, 1H, J=1.7 Hz, 7.7 Hz), 7.1-7.3

(m. 10H).

実施例1の方法に準じて、化合物17を0.71g用いて、化合物17のフマル酸塩・0.5水和物を0.46g得た。

融点:108-111 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2346, 1693, 1557, 1430, 1280, 1115, 1013, 701.

【0079】 実施例18

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,11-ジヒドロジペ10ンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物18)

実施例14の方法に準じて、参考例4で得られる11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,11 -ジヒドロジベンゾ [b, e]オキセピン-2-カルボン酸(化合物d)0.61gと4-(2-アミノエチル)モルホリン0.20mlを用いて、化合物18を 0.45g得た。

1 HNMR (お, ppm, CDCl₃): 1.2-1.7 (m, 5H), 1.8-2.0 (m, 2H), 2.2-2.7 (m, 10H), 2.53 (d, 1H, J=6.4 Hz), 2.8-3.0 (m, 2H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.6-3.8 (m, 4H), 4.04 (brs, 1H), 4.97 及び 5.60 (ABq, 2H, J=14.1 Hz), 6.69 (brs,1H), 6.95 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.48 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.4 Hz), 7.72 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物18を0.40g用いて、化合物18の塩酸塩を0.37g得た。

融点:228 ℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 3294, 2858, 2534, 1656, 164 0, 1494, 1450, 1104, 700.

【0080】実施例19

N- (2-ピペリジノエチル) -11- [2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] -6, 11-ジヒドロジベング [b, e] オキセピン-2-カルボキサミド (化合物19)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dをO.50gと1-(2-アミノエチル)ピペリジンO.24m1を用いて、化合物19をO.47g得た。 1HN (お, ppm, CDCls):1.2-1.6(m, 9H), 1.8-1.9(m, 2H), 2.1-2.6(m, 14H), 2.84(d, 2H, J=11.2 Hz), 3.5-3.6(m, 2H), 4.0-4.1(m, 1H), 4.96及び5.60(ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.9(brs, 1H), 6.94(d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.3(m, 9H), 7.50(dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.72(d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物19を0.46g用いて、化合物19の2塩酸塩・1.5水和物を0.20g得た。

融点:261-263 ℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 3280, 2948, 1652, 1531, 149 4, 1454. 【0081】実施例20

N-[2-(1-ピロリジル) エチル] -11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] -6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物20)

34

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを0.50gと1-(2-アミノエチル)ピロリジン0.21mlを用いて、化合物20を0.48g得た。 ¹HNMR(δ, ppm, CDCl₃):1.2-1.4(m, 2H), 1.5-1.6(m, 3H), 1.8-1.9(m, 5H), 2.2-2.4(m, 5H), 2.53(d, 2H, J=6.9 Hz), 2.6-2.7(m, 4H), 2.72(t, 2H, J=5.9 Hz), 2.8-2.9(m, 2H), 3.5-3.6(m, 2H), 4.0-4.1(m, 1H), 4.95及び5.59(ABq, 2H, J=14.2 Hz), 6.93(d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3(m, 9H), 7.51(dd, 1H, J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物20を0.47g用いて、化合物20の2塩酸塩・1.5水和物を0.22g 得た。

融点:153-155 ℃

IR (KBr 錠剤;cm¹):1652,1606,1494,1456,131 5,1240,1008.

【0082】実施例21

N-[2-(4-f) + 1] - 11- [2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] -6, 11- -ジヒドロジベング [b, e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物21)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを1.00gと4-(2-アミノエチル)チオモルホリン0.52gを用いて、化合物21を0.85g得た。
30 ¹HNMR (δ, ppm, CDCl₃):1.2-2.0 (m, 9H), 2.1-2.9 (m, 16H), 3.5-3.6 (m, 2H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.96 及び 5.61 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.6 (brs, 1H), 6.9 4 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.45 (dd, 1

H, J=2.3 Hz, 8.3Hz), 7.71 (d, 1H, J=2.3 Hz). 実施例7の方法に準じて、化合物21を O・448用いて、化合物21の2シュウ酸塩・水和物を O・42g得た。

融点:161-162 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1640, 1567, 1541, 1492, 140 40 2, 1233, 1201.

【0083】実施例22

N-[2-(1-ヘキサメチレンイミノ)エチル]-1 1-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6, 11-ジヒドロジベンソ[b, e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物22)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを1.00gと1-(2-アミノエチル)シクロヘキサメチレンイミン0.82gを用いて、化合物22を0.96g得た。

50 ¹ HNMR (δ , ppm, CDCl₃) : 1.2-1.9 (m., 15H), 2.2-2.

4 (m, 4H), 2.52 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.6-2.9 (m, 8 H), 3.4-3.5 (m, 2H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.96 及び 5.61 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.9 (brs, 1H), 6.94 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.48 (dd, 1H, J=2.1 Hz, 8.3 Hz), 7.71 (d, 1H, J=2.1 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物22を0.82g用いて、化合物22の2塩酸塩を0.46g得た。

融点:217 ℃ (分解)

IR (KBr 鯨河; cm⁻¹): 2937, 1657, 1538, 1492, 1286, 1239.

【0084】実施例23

N-(1-エチルピロリジン-2-イルメチル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,1 1-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物23)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを1.00gと2ーアミノメチルー1ーエチルピロリジン0.84m1を用いて、化合物23を0.96g得た。

¹HNMR (δ, ppm, CDCl₃): 1.12 (t, 3H, J=7.3 Hz), 1.2-2.0 (m, 9H), 2.1-3.0 (m, 12H), 2.52 (d, 2H, J=6.9 Hz), 3.1-3.4 (m, 2H), 3.6-3.8 (m, 1H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.9-5.0 (m, 1H), 5.6-5.7 (m, 1H), 6.8 (b rs, 1H), 6.93 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.4 (m, 9H), 7.5-7.6 (m, 1H), 7.71 (d, 1H, J=2.0 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物23を0.70g用いて、化合物23の1.5フマル酸塩・2.5水和物を0.65g得た。

融点:148-150 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1701, 1640, 1567, 1492, 138 0, 1245.

【0085】奥施例24

N-[2-(1-メチルピロール-2-イル) エチル] -11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル] -6,11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2 -カルボキサミド(化合物24)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを1.00gと2ーアミノエチルー1ーメチルピロール0.73m1を用いて、化合物24を0.85g得た。

¹HNMR (δ, ppm, CDCls):1.2-2.0 (m, 5H), 2.1-2.4 40 (m, 4H), 2.53 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.8-3.0 (m, 6H), 3.57 (s, 3H), 3.6-3.7 (m, 2H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.9 5及び5.59 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 5.9-6.0 (m, 1H), 6.08 (t, 1H, J=3.1 Hz), 6.3 (brs, 1H), 6.58 (t, 1 H, J=2.1 Hz), 6.91 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.43 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.3 Hz), 7.66 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物24を0.45g用いて、化合物24のシュウ酸塩・2水和物を0.32g得た。

融点:143-145 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2937, 1718, 1652, 1635, 1494, 1236, 1203.

【0086】実施例25

N-(3-モルホリノプロピル)-11-[2-(4- ベンジルピペリジノ) エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物25)

参考例4で得られる化合物dを1.00gとジクロロメ タン30mlの混合物に氷冷下、ピリジン触媒量、塩化 チオニル0.33mlを加え、室温で8時間撹拌した。 溶媒および過剰の塩化チオニルを留去した。 残査のジクロロメタン10ml溶液を、4-(3-アミノプロピル)モルホリン0.99mlのジクロロメタン20ml溶液に氷冷下滴下した。 反応終了後、反応溶液に水を加え、ジクロロメタンで抽出した。 抽出液を水、飽和食塩水で順次洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した。 減圧下に溶媒留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出溶媒、酢酸エチル/トリエチルアミン=10 /1)で精製し、化合物25を1.02g得た。

¹HNMR (δ , ppm, CDCl₃): 1.2-2.0 (m, 11H), 2.1-2.6 (m, 13H), 2.8-2.9 (m2H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.71 (t, 4H, J=4.6 Hz), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.95 及び 5.6 1 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.94 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.3 (m, 10H), 7.53 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.73 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物25を0.97g用いて、化合物25の2シュウ酸塩・2水和物を0.63g 得た。

30 融点:131-133℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2877, 1717, 1632, 1487, 140 1, 1232, 718.

【0087】実施例26

N-(3-ピペリシノアロピル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル]-6,11-ジヒドロジベンソ <math>[b,e] オキセピン-2-カルボキサミド (化合物26)

実施例25の方法に準じて、参考例4で得られる化合物 dを1.00gと1-(3-アミノアロビル) ピペリジン0.60gを用いて、化合物26を0.92g得た。 1HNNR (δ, ppm, CDCl3):1.2-1.9 (m, 17H), 2.1-2.6 (m, 10H), 2.7-2.9 (m, 2H), 3.4-3.7 (m, 2H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.94 及び 5.61 (ABq, 2H, J=14.3Hz), 6.93 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.1-7.4 (m, 9H), 7.58 (dd, 1H, J=2.0 Hz, 8.4 Hz), 7.72 (d, 1H, J=2.0 Hz), 8.43 (brs, 1H).

化合物26、0.52gとイソプロパノール2mlの混合溶液にリンゴ酸0.24gを加え室温で撹拌した。減圧下に溶媒留去し、残渣をエーテルでトリチュレーションすることにより、化合物26の2リンゴ酸塩・水和物

を0.52g得た。

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2948, 1692, 1639, 1494, 132 0, 1240, 1094.

【0088】実施例27

N-ピペリジノー11-[2-(4-ベンジルピペリジ ノ) エチル] -6, 11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物27)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを0.50gと1-アミノピペリジン0.18mlを用いて、化合物27を0.34g得た。

¹HNMR (δ, ppm, CDCl3): 1.2-1.9 (m, 13H), 2.1-2.4 (m, 4H), 2.53 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.7-2.9 (m, 6 H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.94 及び 5.60 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.92 (d, 1H, J=8.2 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.48(d, 1H, J=7.9 Hz), 7.6 (brs, 1H). 実施例3の方法に準じて、化合物27を0.32g用いて、化合物27の2塩酸塩・水和物を0.24g得た。融点:177-179 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2685, 1677, 1606, 1565, 149 4, 1453, 1239, 750.

【0089】実施例28

4-ヒドロキシ-1-[11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル]-6, 11-ジヒドロジベンゾ[b,e] オキセピン-2-イルカルボニル] ピペリジン(化合物28)

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを1.00gと4ーヒドロキシピペリジン0.57gを用いて、化合物28を0.83g得た。

1 HNMR (& , ppm, CDCl₃): 1.2-2.0 (m, 12H), 2.1-2.4 (m, 4H), 2.52 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.8-3.0 (m, 2 H), 3.2-3.4 (m, 2H), 3.7-4.1 (m, 4H), 4.95 及び5.57 (ABq, 2H, J=14.2 Hz), 6.94 (d, 1H, J=7.9 Hz), 7.1-7.4 (m, 11H).

実施例1の方法に準じて、化合物28を0.63g用いて、化合物28のフマル酸塩・0.5水和物を0.59g場た。

融点:197-199 ℃

ン(化合物29)

IR (KBr 紀刊; cm⁻¹): 2853, 1703, 1615, 1498, 1445, 1236, 1199.

【0090】実施例29

3ーヒドロキシー1- [11- [2- (4-ベンジルビ ペリジノ) エチル] -6,11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-イルカルボニル] ピペリジ

実施例1の方法に準じて、参考例4で得られる化合物dを1.00gと3ーヒドロキシピペリジン0.78gを用いて、化合物29を0.87g得た。

1 HNMR (8, ppm, CDCl3): 1.2-2.0 (m, 11H), 2.2-2.4 (m, 4H), 2.53 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.8-2.9 (m, 2 H), 3.2-3.9 (m, 6H), 3.9-4.1 (m, 1H), 4.96 及び

38

5.55 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.94 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.4 (m, 11H).

実施例1の方法に準じて、化合物29を0.79g用いて、化合物29の0.5フマル酸塩・2.5水和物を0.72g得た。

融点:146-148 ° C

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 3382, 2942, 1702, 1615, 149 8, 1445, 1373, 1279, 1252.

【0091】実施例30

N-(キヌクリジン-3-イル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,11-ジヒドロジ ベンゾ [b, e]オキセピン-2-カルボキサミド(化 合物30)

実施例25の方法に準じて、参考例4で得られる化合物 dを1.00gと3-アミノキヌクリジン0.92gを 用いて、化合物30を0.26g得た。

1HNMR (8, ppm, CDCl₃): 1.1-3.2 (m, 25H), 3.4-3.5 (m, 1H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.1-4.2 (m, 1H), 4.96 及び 5.59 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.5-6.6 (m,1H), 6.

20 95 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.5-7.6 (m, 1H), 7.7-7.8 (m, 1H).

実施例1の方法に準じて、化合物30を0.22g用いて、化合物30のフマル酸塩・2水和物を0.17g得た。

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2932, 1714, 1640, 1492, 124 8, 980, 642.

【0092】実施例31

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,11-ジヒドロジベング[b,e]オキセピン-2-イルアセトアミド(化合物31)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル ピペリジノ)エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピン-2-酢酸1.00gと4-(2 -アミノエチル)モルホリン0.86mlを用いて、化 含物31を0.47g得た。

腹点:107-109 ℃

IR (KBr (宋刊; cm⁻¹): 3328, 2921, 1639, 1536, 150 0, 1222, 1116, 752.

40 「INNR" (6, ppm, CDCls): 1.2-1.9 (m, 7H), 2.2-2.9 (m, 10H), 2.53 (d, 2H, J=6.9 Hz), 3.2-3.5 (m, 4 H), 3.39 (t, 4H, J=4.4 Hz), 3.50 (s, 2H), 3.9-4.0 (m, 1H), 5.48 及び 5.58 (ABq, 2H, J=16.8 Hz), 6.0 (brs, 1H), 6.9-7.4(m, 12H).

【0093】実施例32

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ) エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-3-カルボキサミド(化合物32)

50 実施例25の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジ

ルピペリジノ) エチル] -6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-3-カルボン酸1. 02gと4 -(2-アミノエチル) モルホリン1. 03m1を用いて、化合物32を1.07g得た。

1 HNMR (δ, ppm, CDCl₃): 1.2-2.0 (m, 7H), 2.1-2.4 (m, 4H), 2.4-2.7 (m,8H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.72 (t, 4H, J=4.6 Hz), 4.0-4.1 (m, 1H), 5.51 及び5.56 (ABq, 2H, J=5.8 Hz), 6.69 (brs, 1H), 7.0-7.5 (m, 12H).

実施例7の方法に準じて、化合物32を0.99g用い 10 て、化合物32のシュウ酸塩を1.07g得た。

融点:197-198 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1719, 1702, 1623, 1616, 1558, 1540, 1508, 1388, 1313, 1203.

【0094】 実施例33

N-[2-(2-ピリジル) エチル] -11-[2-[4-[(2-メトキシフェニル) メチル] ピペリジ ノ] エチル] チオー6、11-ジヒドロジベンゾ [b. e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物33) 化合物i(参考例9)から参考例4と同様の方法により 得られる11-[2-[4-[(2-メトキシフェニ ル)メチル] ピペリジノ] エチル] チオー6、11-ジ ヒドロジベンゾ [b. e] オキセピン-2-カルボン酸 1.22gと2-(2-アミノエチル) ピリジン0.5 8m1を用いて、実施例14の方法に準じて、化合物3 3を0.72g得た。

1 HNMR (δ, ppm, CDCl₃): 1.2-1.7(m, 5H), 1.8-2.0 (m, 2H), 2.3-2.7 (m, 6H), 2.52 (d, 2H, J=6.4 Hz), 2.7-2.9 (m, 2H), 3.09 (t, 2H, J=6.2 Hz), 3.80 (s, 3H), 3.8-3.9 (m, 2H), 4.87 及び 6.40 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 4.97 (s, 1H), 6.84 (d, 1H, J=8.6 Hz), 6.8-6.9 (m, 2H), 7.05 (dd, 1H, J=1.7 Hz, 7.2 Hz), 7.1 -7.3 (m, 6H), 7.4-7.5 (m, 1H), 7.49 (dd, 1H, J=2.1 Hz, 8.6Hz), 7.6-7.7 (m, 1H), 7.78 (d, 1H, J=2.1 Hz), 8.57 (d, 1H, J=4.0 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物33を0.67g用いて、化合物33の0.5フマル製塩を0.42g得た。 融点:151-152 ℃

IR (KBr (597); cm⁻¹): 1633, 1599, 1570, 1493, 132 0, 1243, 759, 666.

【0095】実施例34

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ベンジル-1-ピペラジニル)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物34)

実施例1の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル -1-ピペラジニル)エチル]チオー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸0. 47gと4-(2-アミノエチル)モルホリン0.26mlを用いて、化合物34を0.19g得た。 1HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.7-1.9 (brs, 2H), 2.3-2.7 (m, 16H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.49 (s, 2H), 3.7-3.8 (m, 4H), 4.88 及び 6.42 (ABq, 2H, J=12.5 Hz), 5.05 (s, 1H), 6.67 (brs, 1H), 6.86 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.46 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz)

40

実施例1の方法に準じて、化合物34を0.13g用いて、化合物34の3フマル酸塩・1.5水和物を0.1 1g得た。

10 融点:145-148℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2364, 1703, 1657, 1650, 1607, 1494, 1237, 983, 700.

【0096】実施例35

z), 7.79 (d, 1H, J=2.3 Hz).

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-[(2-メトキシフェニル)メチル]-1-ピペラジニル]エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物35)実施例14の方法に準じて、11-[2-[4-[(2-メトキシフェニル)メチル]-1-ピペラジニル]エチル]チオ-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸1.50gと4-(2-アミノエチル)モルホリン0.78mlを用いて、化合物35を1.17g得た。

1HNMR (お, ppm, CDCl3): 1.7-1.9 (brs, 2H), 2.4-2.7 (m, 16H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.56 (s, 2H), 3.7-3.8 (m, 4H), 3.80 (s, 3H), 4.88 及び 6.42 (ABq, 2 H, J=12.9 Hz), 5.04 (s, 1H), 6.74 (brs, 1H), 6.86 (d, 1H, J=8.5 Hz),6.9-7.0 (m, 2H), 7.1-7.3 (m, 6 H), 7.47 (dd, 1H, J=2.2 Hz, 8.5 Hz), 7.79(d, 1H, J 30 =2.2 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物35を0.39g用いて、化合物35の3シュウ酸塩・2水和物を0.39g 得た。

融点:170 ℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2364, 1702, 1606, 1492, 1439, 1403, 1280, 1102, 1009, 761, 721, 707.

【0097】與施例36

N-[2-(2-ピリジル)エチル]-11-(2-ベンジルアミノエチル)チオー6,11-ジヒドロジベン40 ゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物36)

実施例14の方法に準じて、11-(2-ペンジルアミノエチル) チオー6, 11-ジヒドロジベンゾ[b,e] オキセピン-2-カルボン酸0.55gと2-(2-アミノエチル) ピリジン0.20m1 を用いて、化合物36を0.23g得た。

1 HNMR (る, ppm, CDCl3): 1.9-2.1 (brs, 2H), 2.5-2.8 (m, 2H), 3.09 (t, 2H, J=6.2 Hz), 3.76 (s, 2H), 3.8-3.9 (m, 2H), 4.86 及び 6.38 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 5.00 (s, 1H), 6.84 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.1-7.4

(m, 11H), 7.49 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.4 Hz), 7.62 (dt, 1H, J=1.8 Hz, 7.7 Hz), 7.78 (d, 1H, J=2.3 Hz), 8.55 (d, 1H, J=4.9 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物36を0.15g用いて、化合物36の0.5フマル酸塩・0.2水和物を0.12g得た。

融点:193 ℃ (分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2926, 1637, 1607, 1567, 154 1, 1492, 1254, 1008, 699.

【0098】奥施例37

N-[2-(2-ピリジル) エチル] -11-[2-(2-メトキシフェニルメチル) アミノエチル] チオー6,11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物37)

実施例14の方法に準じて、11-[2-(2-メトキシフェニルメチル)アミノエチル]チオー6、11-ジヒドロジベンゾ[b, e]オキセピン-2-カルボン酸1.89gと2-(2-アミノエチル)ピリジン0.63m1を用いて、化合物37を0.42g得た。

¹HNMR (δ, ppm, CDCl3): 1.8-2.0 (brs, 2H), 2.5-2.8 (m, 2H), 3.09 (t, 2H, J=6.2 Hz), 3.7-3.9 (m, 2 H), 3.82 (s, 2H), 3.82 (s, 3H), 4.85 \not Δ \not Δ (AB q, 2H, J=12.9 Hz), 4.99 (s, 1H), 6.84 (d, 1H, J=8.6 Hz), 6.8-6.9 (m, 2H), 7.1-7.3 (m, 8H), 7.51 (dd, 1H, J=2.1 Hz, 8.6 Hz), 7.62 (dt, 1H, J=1.8 Hz, 7.7 Hz), 7.77 (d, 1H, J=2.1 Hz), 8.54 (d, 1H, J=5.0 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物37を0.41g用いて、化合物37の0.5フマル酸塩・0.2水和物を0.36g得た。

融点:216 ℃(分解)

IR (KBr 解初; cm⁻¹): 1640, 1606, 1542, 1495, 125 4, 757, 724.

[0099] 果如38

N- (2-モルボリノエチル)-11-[3-(4-ベンジルビベリジノ)プロビル]-6,11-ジヒドロジベンソ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化全物38)

化合物 a (参考例 1) から得られる 11 - [3-(4-ベンジルビベリシノ) プロビル] - 6, 11 - ジヒドロジベンソ [b, e] オキセピン-2-カルボン酸 0.2 8 gと 4-(2-アミノエチル) モルホリン 0.08 m 1を用いて、実施例 14の方法に準じて、化合物 38を0.21 g得た。

1 HN駅 (& , ppm, CDCls) : 1.3-1.8 (m, 5H), 1.9-2.6 (m, 10H), 2.51 (d, 2H, J=5.3 Hz), 2.61 (t, 2H, J=6.1 Hz), 2.9-3.1 (m, 2H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.6-3.8 H), (m, 4H), 3.88 (t, 1H, J=7.9 Hz), 4.97 及び 5.56 実施 (ABq, 2H, J=14.2Hz), 6.97 (d, 1H, J=8.5 Hz), 7.0-7.3 (m, 9H), 7.53 (dd, 1H, J=2.2 Hz, 8.5 Hz), 7.72 50 た。

(d, 1H, J=2.2 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物38を0.13g用いて、化合物38の1.5フマル酸塩・1.2水和物を0.14g得た。

42

融点:127-129 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2930, 1643, 1490, 1453, 1228, 1116, 1011, 985, 703.

【0100】実施例39

N-(2-モルホリノエチル)-11-(4-ベンジル 10 ピペリジノ)メチル-6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物3 9)

化合物 g (参考例 7) から参考例 4 と同様の方法により得られる 1 1 - (4 - ベンジルピペリジノ) メチルー6, 1 1 - ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピンー2 - カルボン酸 0.54 gと4 - (2 - アミノエチル) モルホリン 0.20 m 1 を用いて、実施例 1 4 の方法に準じて、化合物 3 9 を 0.47 g 得た。

1HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.1-1.6 (m, 5H), 2.4-2.5 (m, 6H), 2.49 (d, 2H, J=5.3 Hz), 2.60 (t, 2H, J=6.9 Hz), 2.7-2.9 (m, 2H), 2.9-3.1 (m, 2H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.7-3.8 (m, 4H), 4.12 (t, 1H, J=6.9 Hz), 4.96 及び 5.56(ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.70 (brs, 1 H), 6.96 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.0-7.3 (m, 9H), 7.50 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.72 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例3の方法に準じて、化合物39を0.45g用いて、化合物39の2塩酸塩・0.5水和物を0.44g 得た。

30 融点:222 ℃(分解)

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2856, 1650, 1496, 1452, 1103, 703.

【0101】奥施例40

N-(2-モルホリノエチル)-(E)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチリデン]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物40)

実施例14の方法に準じて、(E)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチリデン]-6,11-ジヒドロジベンソ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸1.54gと4-(2-アミノエチル)モルホリン〇.38mlを用いて、化合物40を1.17g特た。1HNMR(δ,ppm,CDCls):1.3-1.7(m,6H),2.5-2.6(m,6H),2.60(t,2H,J=6.1 Hz),2.9-3.4(m,6H),3.4-3.5-3.6(m,2H),3.73(t,4H,J=4.6 Hz),4.5-5.8(brs,2H),6.26(t,1H,J=6.8 Hz),6.7(brs,1H),6.79(d,1H,J=8.6 Hz),7.1-7.4(m,9H). 実施例3の方法に準じて、化合物40を0.98g用いて、化合物40の2塩酸塩・2水和物を0.84g得

融点:190-193 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2926, 2360, 1649, 1605, 1487, 1454, 1249, 1230.

【0102】 実施例41

N-(2-モルホリノエチル)-(E)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチリデン]-6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピン-2-イルアセトアミド(化合物41)

実施例1の方法に準じて、(E)-11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチリデン]-6,11-ジヒド 10 ロジベンゾ[b, e]オキセピン-2-酢酸0.54g と4-(2-アミノエチル)モルホリン0.20mlを 用いて、化合物41を0.47g得た。

融点:156-159 ℃

IR (KBr 範刊; cm⁻¹): 3300, 2918, 1641, 1544, 148 9, 1118, 1012, 758, 700.

¹HNMR (ゟ, ppm, CDCl3): 1.2-1.7 (m, 5H), 2.2-2.4 (m, 6H), 2.51 (d, 2H, J=6.9 Hz), 2.8-3.0 (m, 2H), 3.2-3.3 (m, 2H), 3.3-3.4 (m, 4H), 3.48 (s,2H), 4.7-4.9 (brs, 1H), 5.4-5.6 (brs, 1H), 5.99 (brs, 1H), 6.16 (t, 1H, J=6.7 Hz), 6.75 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.01 (dd, 1H, J=2.1 Hz, 8.4 Hz), 7.1-7.4 (m, 10H). 【O1O3】実施例42

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ベンジル-1-ピペラジニル)エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミ

ド(化合物42)

実施例25の方法に準じて、11-[2-(4-ベンジル-1-ピペラジニル)エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸1.00gと4-(2-アミノエチル)モルホリン0.89m1を用いて、化合物42を1.03g得た。

1 HNMR (δ, ppm, CDC18): 1.2-1.9 (m, 7H), 2.2-2.9 (m, 10H), 2.53 (d, 2H, J=6.9 Hz), 3.2-3.5 (m, 4 H), 3.39 (t, 4H, J=4.4 Hz), 3.50 (s, 2H), 3.9-4.0 (m, 1H), 5.48 及び 5.58 (ABq, 2H, J=16.8 Hz), 6.0 (brs, 1H), 6.9-7.4 (m, 12H).

実施例7の方法に準じて、化合物42を1.03g用いて、化合物42の2シュウ酸塩・0.8水和物を0.96g得た。

融点:164-166 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1719, 1702, 1635, 1492, 1403, 1232, 1110.

【0104】実施例43

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-(2-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル] エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ <math>[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド (化合物43)

実施例25の方法に準じて、11-[2-[4-(2-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル]エチル]-

44

6,11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボン酸2.00gと4-(2-アミノエチル) モルホリン1.72m1を用いて、化合物43を1.82g得た。

¹HNMR (δ , ppm, CDCl₃): 2.3-2.7 (m, 14H), 3.0-3. 2 (m, 4H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.71 (t, 4H, J=4.6 Hz), 3.85 (s, 3H), 4.1-4.2 (m, 1H), 4.98 及び 5.62 (AB q, 2H, J=14.0 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.8-7.1 (m, 5H), 7.1-7.3 (m, 4H), 7.48 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.3 Hz), 7.76 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物43を0.91g用いて、化合物43の2シュウ酸塩・0.5水和物を0.8 0g得た。

融点:170-172 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1638, 1608, 1497, 1402, 1278, 1242, 1115, 718.

【0105】実施例44

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-(3-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル]エチ 20 ル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物44)

実施例25の方法に準じて、11-[2-[4-(3-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル]エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸1.00gと4-(2-アミノエチル)モルホリン0.86mlを用いて、化合物44を0.21g得た。

1HNMR (る, ppm, CDCl₃): 2.2-2.7 (m, 14H), 3.2-3.3 (m, 4H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.73 (t, 4H, J=4.6 Hz), 3.79 (s, 3H), 4.1-4.2 (m, 1H), 4.99 及び 5.62 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.41 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 7.9 Hz), 6.46 (t, 1H, J=2.3 Hz), 6.54 (dd, 1H, J=2.3 Hz), 8.3 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.97 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 5H), 7.50 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.3 Hz), 7.76 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物44を0.21g用いて、化合物44の2シュウ酸塩・0.5水和物を0.23g得た。

融点:173-174 ℃

40 IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1648, 1600, 1494, 1230, 121 8, 1201.

【0106】実施例45

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-(4-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル] エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物45)

実施例25の方法に準じて、11-[2-[4-(4-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル]エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2 50 -カルボン酸1、00gと4-(2-アミノエチル)モ

ルホリン0.86mlを用いて、化合物45を1.00 g得た。

¹ HNMR (δ , ppm, CDCl₃): 2.3-2.6 (m, 14H), 3.11 (t, 4H, J=4.9 Hz), 3.5-3.6 (m 2H), 3.71 (t, 4H, J=4.6 Hz), 3.77 (s, 3H), 4.1-4.2 (m, 1H), 4.98及び 5.62 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.8-6.9 (m, 4H), 6.97 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.2-7.3 (m, 4H), 7.48 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.75 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物45を0.90g用い 10 て、化合物45の2シュウ酸塩・0.8水和物を0.9 0g得た。

融点:138-139℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1635, 1610, 1513, 1492, 1403, 1245.

【0107】実施例46

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-(4-クロロフェニル)-1-ピペラジニル] エチル] -6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピンー2-カルボキサミド(化合物46)

実施例25の方法に準じて、11-[2-[4-(4-20107 + 20107 +

1 HNMR (お, ppm, CDCl3): 2.2-2.6 (m, 14H), 3.17 (t, 4H, J=4.9 Hz), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.71 (t, 4H, J=4.9 Hz), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.98 及び 5.62 (ABq, 2 H, J=14.0 Hz), 3.7 (brs, 1H), 6.8-6.9 (m, 2H), 6.9 7 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 6H), 7.47 (dd, 1 H, J=2.3 Hz, 8.3 Hz), 7.76 (d, 1H, J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物46を0.87g用いて、化合物46の2シュウ酸塩・0.5水和物を0.94g得た。

融点:163-164℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1641, 1496, 1403, 1241, 123 2.

【0108】実施例47

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-ヒ 40ドロキシー4-(3-トリフルオロメチルフェニル) ピペリジノ] エチル]-6, <math>11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物47)

実施例25の方法に準じて、11-[2-[4-ヒドロキシ-4-(3-トリフルオロメチルフェニル) ピペリジノ]エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピン-2-カルボン酸1.76gと4-(2-アミノエチル)モルホリン1.35mlを用いて、化合物47を1.04g得た。

¹HNMR (δ , ppm, CDCl₃): 2.1-2.8 (m, 14H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.71 (t, 4H, J=4.6 Hz), 4.0-4.1 (m, 1 H), 4.99 及び 5.62 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.97 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 4H), 7.4-7.5 (m, 3H), 7.70 (d, 1H, J=7.6 Hz), 7.77 (d, 1H, J=2.3 Hz), 7.8 (brs, 1H).

実施例1の方法に準じて、化合物47を1.03g用い、エーテルでトリチュレーションすることにより、化合物47の2フマル酸塩・0.5水和物・エーテル付加物を1.02g得た。

融点:124-125℃

IR (KBr 錠剤; cur¹):1637, 1573, 1494, 1330, 1247, 1118, 983.

【0109】実施例48

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-(4-フルオロフェニルカルボニル) ピペリジノ] エチ ル]-6,11-ジヒドロジベンソ [b, e] オキセピ ン-2-カルボキサミド (化合物48)

実施例25の方法に準じて、11-[2-[4-(4-20 フルオロフェニルカルボニル) ピペリジノ] エチル] - 6,11-ジヒドロジベンゾ [b,e] オキセピン-2 - カルボン酸1.90gと4-(2-アミノエチル) モルホリン1.58mlを用いて、化合物48を2.01g得た。

1HNMR (& , ppm, CDCl₃): 1.8-2.6 (m, 16H), 2.8-3.0 (m, 2H), 3.1-3.2 (m, 1H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.7-3.8 (m, 4H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.98 及び 5.61(ABq, 2 H, J=14.0 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.96 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.2 (m, 6H), 7.50 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.72 (d, 1H, J=2.3 Hz), 7.9-8.0 (m, 2H).

実施例7の方法に準じて、化合物48を0.33g用いて、化合物48の1.5シュウ酸塩・2水和物を0.3 1g得た。

融点:121-123 ℃

IR (KBr 候前; cm¹): 1635, 1598, 1494, 1228. 【0110】果解例49

N-(2-モルポリノエチル)-11-[2-[4-[1-(4-フルオロフェニル)-1-ヒドロキシメチル] ピペリジノ] エチル]-6,11-ジヒドロジベンソ[b,e]オキセピン-2-カルポキサミド(化合物49)

化合物48、1.01gのメタノール20m1溶液に氷冷下、水素化ホウ素ナトリウム0.14gを加え室温で1時間慣件した。反応解了後、減圧下に溶媒留去した後水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水、飽和食塩水で順次洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出溶媒、酢酸エチル/トリエチルアミン/メタノール=10/1/1)で精製し、化合物49を1.73g得た。

1 HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.3-3.0 (m, 20H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.72 (t, 4H, J=4.1 Hz), 4.0-4.1 (m, 1 H), 4.3-4.4 (m, 1H), 4.96 及び 5.59 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.9-7.3 (m, 9H), 7.4-7.5 (m, 1H), 7.73 (d, 1H, J=2.0 Hz).

実施例1の方法に準じて、化合物49を0.64g用いて、化合物49の2フマル酸塩・1.3水和物を0.56g得た。

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹):1704, 1640, 1603, 1492, 1250, 1104.

【0111】実施例50

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-アセトアミドー4-フェニルピペリジノ)エチル]-6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物50)

実施例25の方法に準じて、11-[2-(4-アセトアミド-4-フェニルピペリジノ) エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸0.83gと4-(2-アミノエチル) モルホリン0.27mlを用いて、化合物50を0.52g得た。融点:189-191℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 2930, 2815, 1650, 1639, 1548, 1494, 1238, 1116, 759.

1 HNMR (る, ppm, CDCl3): 1.8-2.0 (m, 2H), 1.85 (s, 3H), 2.07 (t, 4H, J=4.0 Hz), 2.1-2.7 (m, 10H), 3.2-3.5 (m, 8H), 4.1-4.2 (m, 1H), 4.5 (brs, 1H), 5.00 及び 5.61 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.90 (d, 1H, J=8.2 Hz), 7.1-7.4 (m, 8H), 7.60 (dd, 1H, J=2.1 Hz, 8.4 Hz), 7.7-7.8 (m, 2H), 8.2-8.3 (m, 1H).

【0112】実施例51

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-(4-ジ)]フェニルメチル-1-ピペラジニル) エチル]-6,11-ジヒドロジベング [b,e] オキセピン-2-カルボキサミド(化合物51)

実施例25の方法に準じて、11-[2-(4-ジフェニルメチル-1-ピペラジニル)エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸1.06gと4-(2-アミノエチル)モルホリン0.80m1を用いて化合物51を1.13g得た。 1HN配(δ,ppm,CDCls):2.2-2.6(m,18H),3.5(m,2H),3.71(t,4H,J=4.6 Hz),4.0-4.1(m,1H),4.21(s,1H),4.95及び5.59(ABq,2H,J=13.9 Hz),6.6(brs,1H),6.94(d,1H,J=8.6 Hz),7.1-7.4(m,14H),7.46(dd,1H,J=2.3 Hz,8.6 Hz),7.69(d,1H,J=2.3 Hz).

実施例7の方法に準じて、化合物51を1.09g用いて化合物51の2シュウ酸塩を1.06g得た。

融点:218-220℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1716, 1700, 1652, 1646, 154 0, 1490, 1452, 1405, 1280, 1230, 1201, 1106, 721.

【0113】実施例52

N-(2-モルホリノエチル)-11-[2-[4-[4-クロロフェニル)フェニルメチル]-1-ピペラジニル]エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物52)

48

実施例1の方法に準じて、11-[2-[4-[4-クロロフェニル)フェニルメチル]-1-ピペラジニ ル]エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e] 10 オキセピン-2-カルボン酸1.00gと4-(2-ア ミノエチル)モルホリン0.71mlを用いて化合物5 2を0.68g得た。

¹HNMR (る, ppm, CDCl₃): 2.2-2.6 (m, 18H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.71 (t, 4H, J=4.0 Hz), 4.0-4.1 (m, 1 H), 4.20 (s, 1H), 4.96及び5.59 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.94 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.4 (m, 13H), 7.46 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.7 (m, 1H).

実施例7の方法に準じて、化合物52を0.43g用い の て化合物52の2シュウ酸塩を0.41g得た。

融点:205-206 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1641, 1633, 1608, 1490, 1405, 1230, 1201, 721.

【0114】実施例53

N-(2-モルホリノエチル)-11-[3-[4-[4-クロロフェニル)フェニルメチル]-1-ピペラジニル]プロピル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボキサミド(化合物53)

1HNNR (8, ppm, CDCl₃): 1.3-1.5 (m, 2H), 1.9-2.0 (m, 2H), 2.0-2.6 (m,16H), 3.5-3.6 (m, 2H), 3.72 (t, 4H, J=4.6 Hz), 3.89 (s, 1H), 4.17 (s, 1H), 4.9 6 25,558 (ABq, 2H, J=14.0 Hz), 6.7 (brs, 1H), 6.40 94 (d, 1H, J=8.6Hz), 7.1-7.4 (m, 13H), 7.45 (dd, 1

H, JE2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.69 (d, 1H, J=2.3 Hz). 実施例7の方法に準じて、化合物53をO.99g用い て化合物53の2シュウ酸塩・1.5水和物を1.01

融点:141-144 ℃

IR (KBr 錠剤; cm⁻¹): 1642, 1638, 1486, 1458, 1403, 1234, 1203, 1103, 721.

【0115】参考例1

11-(3-ヒドロキシプロピル)-6, 11-ジヒド 50 ロジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボン酸メチ ルエステル (化合物a)

特開平5-202021に記載の方法で得られる11-アリル-6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e] オキセ ピン-2-カルボン酸メチルエステル3.24gのテト ラヒドロフラン200m1溶液に、氷冷下で1.0Mボ ラン/テトラヒドロフラン溶液110mlを加え、室温 で2.5時間撹拌した。反応液を氷水に注ぎ1.5時間 攪拌した後、30%過酸化水素水溶液10mlおよび1 ON 水酸化ナトリウム水溶液2m1を加え1時間攪拌 した。4 N塩酸で反応液をp H 4 とした後、酢酸エチル 10 で抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、 飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥し た。減圧下に溶媒留去した後、残渣をシリカゲルカラム クロマトグラフィー(溶出溶媒、ヘキサン/酢酸エチル =2/1)で精製し、化合物aを2.27g得た。 ¹HNMR (δ , ppm, CDCl₃): 1.5-1.6 (m, 3H), 2.1-2.3 (m, 2H), 3.6-3.7 (m, 2H), 3.88 (s, 1H), 3.9-4.0 (m, 1H), 4.99 及び 5.62 (ABq, 2H, J=13.9 Hz),6.93 (d, 1H, J=7.5 Hz), 7.2-7.3 (m, 4H), 7.79 (dd, 1H, J=2.0 Hz, 7.5 Hz), 7.89 (d, 1H, J=2.0 Hz).

【0116】参考例2

11-ホルミルメチルー6, 11-ジヒドロジベンゾ [b, e]オキセピン-2-カルボン酸メチルエステル (化合物b)

11ーアリルー6, 11ージヒドロジベンゾ [b, e] オキセピンー2ーカルボン酸メチルエステル2.30 g、エーテル100mlおよび水100mlの混合物に四酸化オスミウム0.16g、次いで過ヨウ素酸ナトリウム6.70gを加え、室温で16時間撹拌した。反応終了後、反応溶液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去した後、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出液は、ヘキサン/酢酸エチル=2/1)で精製し、化合物もを1.87g得た。

¹HNMR (δ, ppm, CDCl₃): 3.3-3.4 (m, 2H), 3.89 (s, 1H), 4.69 (t, 1H, J=7.2 Hz), 5.08 & U 5.53 (A Bq, 2H, J=14.5 Hz), 7.00 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.1-7. 3 (m, 4H), 7.85 (dd, 1H, J=2.2 Hz), 8.7 Hz), 7.96 (d, 1H, J=2.2 Hz), 9.72 (t, 1H, J=1.2 Hz).

【0117】参考例3

11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸メチルエステル(化合物c)参考例2で得られる化合物b、0.56gのメタノール20m1溶液に4-ベンジルピペリジン0.70m1、次いでシアノ水素化ホウ素ナトリウム0.59gを加え、塩酸-エタノール溶液で反応溶液を弱酸性に保ち(指示薬、ブロムクレゾールグリーン)、室温で22時間撹拌した。反応溶液をアルカリ性にし、酢酸エチルで

50

抽出した。抽出液を水、飽和食塩水で順次洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出溶媒、ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン=20/10/1)で精製し、化合物cを0.76g得た。

1HNMR (る, ppm, CDCl₃): 1.2-1.9 (m, 7H), 2.0-2.3 (m, 4H), 2.54 (d, 2H, J=6.6 Hz), 2.8-2.9 (m, 2H), 3.88 (s, 3H), 4.0-4.1 (m, 1H), 4.96 及び 5.63 (AB q 2H, J=13.7 Hz), 6.91 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.78 (dd, 1H, J=2.1 Hz, 8.6 Hz), 7.92 (d, 1H, J=2.1 Hz).

【0118】参考例4

11-[2-(4-ベンジルピペリジノ)エチル]-6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2 -カルボン酸(化合物d)

参考例3で得られる化合物c、14.5gのエタノール 320ml溶液に1N水酸化ナトリウム溶液63mlを 加え2時間加熱還流した。反応終了後、減圧下に溶媒留 去し、残留物に水を加え4N塩酸によってpH5とし 20 た。析出した結晶をろ取し、エタノールで加熱トリチュ レーションして、化合物dを10.3g得た。

¹ HNMR (δ , ppm, DMSO-ds):1.2-1.9 (m, 7H), 2.0-2.3 (m, 4H), 2.4-2.5 (m, 2H), 2.7-2.9 (m, 2H), 4.1-4.2 (m, 1H), 5.00 及び 5.62 (ABq, 2H, J=13.9Hz), 6.89 (d, 1H, J=8.3 Hz), 7.1-7.3 (m, 9H), 7.67 (dd, 1H, J=2.0 Hz, 8.3 Hz), 7.87 (d, 1H, J=2.0 Hz).

【0119】参考例5

30

2-メトキシカルボニル-6,11-ジヒドロジベンゾ [b, e]オキセピン-11-スピロ-2'-オキシラン(化合物e)

水素化ナトリウム (60%油性) 1.53g、ジメチルスルホキシド50mlおよびテトラヒドロフラン50mlの混合物に氷冷下、ヨウ化トリメチルスルホニウム7.83gを加え、その温度で1時間撹拌した。反応混合物に、11-オキソー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピン-2-カルボン酸メチルエステル6.86gのジメチルスルホキシド50mlーテトラヒドロフラン50mlの混合溶液を滴下し、室温で24時間撹拌した。反応終了後、反応溶液に氷冷下で水を加え、エーテルで抽出した。抽出液を水、飽和食塩水で類次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去し、化合物eを4.04g得た。

1HNMR (δ, ppm, CDCl₈): 3.00 及び 3.23 (ABq, 2 H, J=6.4 Hz), 3.88 (s,3H), 5.09 及び 5.75 (ABq, 2 H, J=12.9 Hz), 6.85 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.3-7.5 (m, 4H), 7.84 (dd, 1H, J=2.2 Hz, 8.4 Hz), 8.17 (d, 1 H, J=2.2 Hz).

【0120】参考例6

11-ホルミルー6、11-ジヒドロジベンゾ [b,

50 e]オキセピン-2-カルボン酸メチルエステル (化合

物f)

参考例5で得られる化合物e、4.02gのジクロロメタン100m1溶液に−18°Cで三フッ化ホウ素・エーテル複合体0.18m1を加え、室温で20時間撹拌した。反応終了後、反応溶液に水を加え、ジクロロメタンで抽出した。抽出液を0.5N水酸化ナトリウム溶液、水、飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に溶媒留去し、残渣をイソプロピルエーテルでトリチュレーションし、化合物fを3.19g得た。

1HNMR (δ, ppm, CDCl₃): 3.90 (s, 3H), 4.65 (s, 1H), 4.89 及び 5.30 (ABq, 2H, J=13.9 Hz), 7.00 (d, 1H, J=8.4 Hz), 7.3-7.4 (m, 4H), 7.91 (dd, 1H, J=2.0 Hz, 8.4 Hz), 7.96 (d, 1H, J=2.0 Hz), 9.92 (s, 1H).

【0121】参考例7

11-(4-ベンジルピペリジノ)メチル-6,11-ジヒドロジベンソ [b, e] オキセピン-2-カルボン 酸メチルエステル(化合物g)

参考例3の方法に準じて、参考例6で得られる化合物 f、2.00gと4ーベンジルピペリジン2.50m1 を用いて、化合物gを0.70g得た。

¹HNMR (δ, ppm, CDCl₃): 1.4–1.6 (m, 5H), 1.9–2.2 (m, 2H), 2.48 (d, 1H, J=6.9 Hz), 2.7–2.8 (m, 2H), 2.9–3.0 (m, 2H), 3.89 (s, 3H), 4.0–4.1 (m, 1H), 4.9 5 \times 5.59 (ABq, 2H, J=14.4 Hz), 7.1–7.3 (m, 10 H), 7.79 (dd, 1H, J=2.0 Hz, 8.4 Hz), 7.92 (d, 1H, J=2.0 Hz).

【0122】参考例8

11-(2-アミノエチル)チオ-6,11-ジヒドロ 30 乳 ジベンゾ [b, e] オキセピン-2-カルボン酸メチル 【 エステル(化合物h) 常

11-メトキシー6,11-ジヒドロジベンゾ[b,e]オキセピンー2-カルボン酸メチルエステル10.0gのジクロロメタン200m1海液に、室温で2ーアミノエチルメルカプタン・塩酸塩4.80g、三フッ化ホウ素・エーテル複合体2.20m1を加え、室温で20時間投拝した。反応核了後、反応溶液に1N水酸化ナトリウム液を加え、エーテルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下に発射法とし、残冷をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶出溶集、酢酸エチル/トリエチルアミン=20/1)で精製し、化合物トを9.05g得た。1HNR(δ,ppg,CDCls):1.48(brs,2H),2.5-2.8

(m, 4H), 3.89 (s, 3H), 4.91 及び 6.46 (ABq, 2H, J=1 2.9 Hz), 6.86 (d, 1H, J=8.6 Hz), 7.2-7.3 (m, 4H), 7.80 (dd, 1H, J=2.3 Hz, 8.6 Hz), 7.96 (d, 1H, J=2.3 Hz).

【0123】参考例9

11-[2-[(2-x)++シフェニル)メチルアミノ]エチル]チオー6、<math>11-ジヒドロジベンゾ [b,e]オキセピンー2-カルボン酸 メチルエステル (化合物 i)

10 参考例3の方法に準じて、参考例8で得られる化合物 h、2.23gと2-アニスアルデヒド1.64mlを 用いて、化合物iを2.85g得た。

「HNMR (δ, ppm, CDCI₃): 2.5-2.7 (m, 4H), 3.75 (s, 3H), 3.83 (s, 3H), 3.87 (s, 3H), 4.87 及び 6.4 5 (ABq, 2H, J=12.9 Hz), 4.97 (s, 1H), 6.85 (d, 1H, J=8.7 Hz), 6.9-7.0 (m, 2H), 7.1-7.3 (m, 6H), 7.79 (dd, 1H, J=2.2 Hz, 8.7 Hz), 7.95 (d, 1H, J=2.2 Hz).

【0124】製剤例1 錠剤

0 常法により次の組成からなる錠剤を作製する。

化合物 1 4	100mg
乳糖	60mg
馬鈴薯でんぷん	30 m g
ポリビニルアルコール	2 m g
ステアリン酸マグネシウム	1 m g
タール色素	微量

【0125】製剤例2 散剤

常法により次の組成からなる散剤を作製する。

 化合物14
 150mg

 乳糖
 280mg

【0126】製剤例3 シロップ剤

常法により次の組成からなるシロップ剤を作製する。

化合物 1 4 1 0 0 mg 精製白糖 4 0 g pーヒドロキシ安息香酸エチル 4 0 mg pーヒドロキシ安息香酸プロピル 1 0 mg ストロベリーフレーバー 0.1 ml

これに水を加えて全量100mlとする。

[0127]

【発明の効果】本発明により、サブスタンスP拮抗作用 および/またはブラジキニン拮抗作用を有し、アレルギー、喘息、炎症、鎮痛、自己免疫疾息、ショック等の諸 疾患の治療および/または予防に有用な三環式化合物またはその薬理学的に許容される塩が提供される。

フロントページの続き

(51) Int. C1.	3	識別記号	庁内整理番号	FΙ			技術表示箇所
A 6 1 K		ACF	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	A 6 1 K	31/47	ACF	
AOIR	31/495	ABN			31/495	ABN	
	31/535	ABL			31/535	ABL	
	32, 333	ABM				ABM	·
		AED				AED	
	31/54	AAH			31/54	AAH	
	31/55	ABE	,		31/55	ABE	
C07D				C07D	337/12		
0070	405/12	211			405/12	211	
	103/ 12	213				213	
	405/14	211			405/14	211	
	105/ 11	213				213	
		217				217	
	453/02	:	÷		453/02		
//(C07D							
	211:10						
	313:12)						
(C07D							
(00.0	211:10						
	213:16						
	313:12)						
(C 0 7 D							
	209:10						
	211:10					*	
	313:12)						
(C07D	405/14				•		
	207:08						
	211:10						
	313:12)						
(C 0 7 D	405/14						
	207:323						
	211:10						
	313:12)						
(72)発明者				(72) 発明者	· 池村 俊秀	. Fel de	_
	静岡県駿東郡山	長泉町下土狩11	188		静岡県三島市名	松町4352—	L
(72)発明者				(72) 発明者		enten de en . en . en .	
	東京都小金井市	市前原町3-35	5-18		静岡県三島市美	容台2-14	- 3